授業科目名	総合国語						
担　当　者	仲村　稔						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 本科目の目的は、広く社会に通用する国語の知識、言語表現能力を身につけることにある。

(到 達 目 標) ①社会人として、また医療人として求められる基礎的な国語力を身につける。
②わかりやすい国語表現について理解し、実践できるようになる。
③文章作成における基本的方法を学ぶ。また、医療人として必要な論理的文章表現を学修する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	講義の概要説明　国語の常識	講義	仲村　稔
	日本文学史　～文学の流れ①～	講義	仲村　稔
	日本文学史　～文学の流れ②～	講義	仲村　稔
	日本文学史　～文学の流れ③～／郷土の文学①　(琉球文学と沖縄の文学)	講義	仲村　稔
	郷土の文学②　(琉球文学と沖縄の文学)	講義	仲村　稔
	国語表現①　人とつながるコミュニケーションⅠ	講義	仲村　稔
	国語表現②　人とつながるコミュニケーションⅡ	講義	仲村　稔
	国語表現③　人とつながるコミュニケーションⅢ	講義	仲村　稔
	国語表現④　ことばの力を磨こうⅠ　言語表現力･思考力を高める	講義	仲村　稔
	国語表現⑤　ことばの力を磨こうⅡ　言語表現力･思考力を高める	講義	仲村　稔
	文章力を磨こう①　「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につけるⅠ	講義	仲村　稔
	文章力を磨こう②　「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につけるⅡ	講義	仲村　稔
	文章力を磨こう③　「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につけるⅢ	講義	仲村　稔
	文章力を磨こう④　「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につけるⅣ	講義	仲村　稔
	筆記試験･まとめ	講義･試験	仲村　稔

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	心理学						
担　当　者	大城　貞則						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 本講義では、テキストを中心に心理学のさまざまな分野について、身近な話題を挙げながら概観する。心理学とはどのような学問か、また人間の行動の基礎となるしくみについて学ぶ。

(到達目標) ①心理学の基礎知識を持ち、人間の心や行動を理解しようとする姿勢をもつことができる。
②人間の心や行動がさまざまな要因(生物学的要因、環境的(社会・文化)要因の影響を受けていることを理解でき、説明できる。
③さまざまな心理学的視点を持ち、自己理解および他者理解に活かすことができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

講義前または後に、講義ごとの復習を兼ねた小テストを行う

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	オリエンテーション　心とは　心理学とは	講義	大城　貞則
2	脳と心	講義	大城　貞則
3	感覚・知覚のしくみ	講義	大城　貞則
4	学習	講義	大城　貞則
5	記憶	講義	大城　貞則
6	やる気と行動	講義	大城　貞則
7	感情	講義	大城　貞則
8	パーソナリティ	講義	大城　貞則
9	メンタルヘルス	講義	大城　貞則
10	自己	講義	大城　貞則
11	発達①	講義	大城　貞則
12	発達②	講義	大城　貞則
13	対人認知	講義	大城　貞則
14	社会・集団の心理	講義	大城　貞則
15	まとめ・期末試験	まとめ・試験	大城　貞則

■期末試験（ 1700 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 30 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
ワークショップ心理学	藤本忠明　他	ナカニシヤ出版
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

小テストを毎回行うので、講義ごとの復習は必ず行って臨むこと

授業科目名	物理学						
担　当　者	安富　允						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) ①力の合成と分解について概説する。
②物体の、重心移動と重心周りの回転を生まない、力のつり合いについて概説する。
③物体の運動に関するニュートンの法則について概説する。
④テコの原理と生体中のテコについて概説する。
⑤浮力と水の圧力について概説する。

(到 達 目 標) ①平行四辺形の法則に従って、力の分解と合成ができる。　②力が物体の回転に及ぼす効果が理解できる。
③力が物体の重心運動に及ぼす効果が理解できる。　④テコには、第1，2，3のテコがあることが理解できる。
⑤テコの原理、輪軸、滑車、歯車の機構、および、生体中のテコが理解できる。　⑥力と質量と加速度の関係が理解できる。
⑦加速度から速度、さらに進んだ距離を求めることができる。　⑧水中で生体が受ける浮力と圧力について理解できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	バネの伸びと力の合成	講義	安富　允
	テコの原理と第1のテコ	講義	安富　允
	第2のテコ･第3のテコ	講義	安富　允
	輪軸･滑車･歯車	講義	安富　允
	生体の中のテコ	講義	安富　允
	下肢に存在するテコ	講義	安富　允
	作用･反作用、力の分解、斜面、摩擦力	講義	安富　允
	物体の位置と座標系	講義	安富　允
	物体の速度と座標系	講義	安富　允
	物体の速度と加速度	講義	安富　允
	力と加速度	講義	安富　允
	力学的仕事とエネルギー	講義	安富　允
	位置エネルギー、運動エネルギー、エネルギー保存則	講義	安富　允
	浮力と水の圧力	講義	安富　允
	まとめ･期末試験	講義･試験	安富　允

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
ＰＴ・ＯＴ・ＰＯ身体運動の理解につなげる物理学		南江堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	生物学						
担　当　者	砂川　昌信/ 照屋　若夏/ 専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) リハビリテーション医療を理解する上で必要な生物の知識を「人体のしくみ」を中心に学ぶ。

(到 達 目 標) ①生物の用語を含めた基礎知識を理解できる
②生物の知識と人体の構造や機能とつなげて考えることができる

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	細胞のしくみ	講義	照屋　若夏
2	細胞のはたらき	講義	照屋　若夏
3	生体物質のはたらき	講義	照屋　若夏
4	遺伝子とそのはたらき	講義	照屋　若夏
5	生殖と遺伝	講義	照屋　若夏
6	体液の恒常性	講義	照屋　若夏
7	体温のしくみ	講義	照屋　若夏
8	刺激伝達のしくみ	講義	砂川　昌信
9	神経のしくみ	講義	砂川　昌信
10	特殊感覚	講義	砂川　昌信
11	生体防御と循環	講義	非常勤講師
12	呼吸系のしくみ	講義	非常勤講師
13	排泄や吸収系のしくみ	講義	非常勤講師
14	内分泌系のしくみ	講義	非常勤講師
15	まとめ	講義･試験	照屋　若夏

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
看護に必要なやりなおし生物・化学	時政　孝行	照林社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
楽しくわかる生物・化学・物理	岡田　隆夫	羊土社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

生物は「人体のしくみ」を知る上での基盤となり、理学療法士をめざす上ではとても重要な科目となります。また入学後、すぐに始まる解剖･生理学の理解の一助となると思います。覚えることが多い科目ですが、自分の体や日常生活に目を向けながら、関連付けて覚えていきましょう。

授業科目名	医学関連英語						
担　当　者	新垣　均						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 医療専門職として医学用語を国際共通語である英語で理解することがより深い知識向上に繋がる。

(到 達 目 標) ①英語医学用語の構成を理解し、用語の組立ができる様になる。
②筋肉･骨格を英名で理解できる様になる

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	基本用語及びテキストフレーム　P1～150	講義	新垣　均
	基本用語及びテキストフレーム　P151～300	講義	新垣　均
	基本用語及びテキストフレーム　P301～450	講義	新垣　均
	テキストフレーム　P451～600	講義	新垣　均
	クイズ1　テキストフレーム　P601～750	講義	新垣　均
	テキストフレーム　P751～900	講義	新垣　均
	テキストフレーム　P901～1050	講義	新垣　均
	テキストフレーム　P1051～1200	講義	新垣　均
	クイズ2　テキストフレーム　P1201～1350	講義	新垣　均
	テキストフレーム　P1351～1500	講義	新垣　均
	医学省略語Ⅰ	講義	新垣　均
	医学省略語Ⅱ	講義	新垣　均
	クイズ3　医学用語　骨格編	講義	新垣　均
	医学用語　筋肉編	講義	新垣　均
	まとめ	講義･試験	新垣　均

■期末試験（ 50 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 45 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 出欠・受講態度等 ）（ 5 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
プログラム学習による医学用語の学び方		医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

暗記事項が多いので毎回講義後復習し、記憶することが必要です。

授業科目名	情報処理						
担　当　者	島袋　尚美						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	16	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要)・コンピュータの基本操作を習得し、レポート作成方法やデータのまとめ作業および発表を行う.
・情報モラル、情報セキュリティ、個人情報の取り扱いを学ぶ.
・インターネットを適切に使用し、情報処理能力をつけるとともに情報検索ができる.

(到 達 目 標)・Word、Excel、Powerpointの基本操作方法を理解し、レポート作成やデータのまとめ方、表計算の仕方を理解する.
・インターネットを使用し、情報セキュリティ、個人情報の取り扱いが適切にできる.
・インターネットを使用し、情報検索ができる。また、社会人として最低限のルールを知り、メールのやり取りができる.

履修における注意事項（受講ルールなど）

①他の学生の学習機会を損なう行為（講義に関係のない私語など）を禁止する.
②講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する.

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	情報モラル＆情報セキュリティ・個人情報の取り扱いについて	講義	島袋　尚美
2	Windowsの操作方法	講義・演習	島袋　尚美
3	課題演習1	講義・演習	島袋　尚美
4	Microsoft　Word　・　PowerPointの操作方法	講義・演習	島袋　尚美
5	課題演習2	講義・演習	島袋　尚美
6	Microsoft　Excel　の操作方法	講義・演習	島袋　尚美
7	課題演習3	講義・演習	島袋　尚美
8	まとめ	講義・演習	島袋　尚美

□期末試験（　　）%　■提出物（ 40 ）%　■小テスト（ 20 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 40 ）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
情報リテラシー改訂版		FOM出版
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

・わからないことは、講義中でも構わないので、質問をすること。

授業科目名	人間発達学						
担　当　者	豊里　竹彦						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 人間の発達段階からみた心や性の諸問題、家庭･学校･職場･地域における心の健康問題など、生活の場に起因する精神保健について講義を行う。あわせて、精神疾患の基礎知識について概説し、交流分析理論を活用したコミュニケーション技法について理解を深める。

(到 達 目 標) ①人間の発達段階を踏まえた心の健康問題について説明することができる。
②精神疾患の基礎知識について説明することができる。
③心の健康問題をかかえる対象者のコミュニケーション技法について理解することができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

教員に質問したい場合などは、授業時間中や授業終了直後、あるいはシラバス等に指定する方法によって直接連絡を取ってください。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	人間発達概論	講義	豊里　竹彦
2	発達段階における健康と精神的危機	講義	豊里　竹彦
3	身体と心の発達	講義	豊里　竹彦
4	発達段階における家族の役割	講義	豊里　竹彦
5	発達段階における学校の役割	講義	豊里　竹彦
6	発達段階における職場の役割	講義	豊里　竹彦
7	発達段階における地域の役割	講義	豊里　竹彦
8	発達段階における性の役割	講義	豊里　竹彦
9	発達段階における身体的危機への対応	講義	豊里　竹彦
10	発達段階における精神的危機への対応	講義	豊里　竹彦
11	慢性疾患を抱えるひとへの保健･医療	講義	豊里　竹彦
12	患者と家族に対する意思決定支援	講義	豊里　竹彦
13	交流分析による患者･医療者関係の理解	講義	豊里　竹彦
14	沖縄の伝統的精神風土と精神保健	講義	豊里　竹彦
15	まとめ･期末試験	講義･試験	豊里　竹彦

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

全人的医療を提供するためには、生活体である人間について、心身の両面と社会･文化的側面からの理解が必要です。
本講義では、誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかについて学びます。各回の授業内容について予習と復習をして、授業に臨んでください。

授業科目名	コミュニケーション論						
担　当　者	島袋　尚美						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	16	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 人間性を高め、人として自分を成長させる素地を養う。さらに自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療者を育てる。また、社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を理解し、演習を通してスキルを身に付ける。

(到 達 目 標) ・自己への理解を深め、自分自身の成長課題を明らかにし、自己成長課題に取り組む姿勢を理解する.
・社会人として必要なマナーを学び、身に付ける.
・医療専門職として求められる資質を理解し、基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力 (スキル) を援助の下で実践できる.

履修における注意事項（受講ルールなど）

他の学生の学習機会を損なう行為 (講義に関係のない私語など) を禁止する。
講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	概要：なぜコミュニケーションを学ぶのか	講義	島袋　尚美
2	自分を理解しよう	講義・演習	島袋　尚美
3	自律した自分になろう	講義・演習	島袋　尚美
4	コミュニケーション力を育もう (主に学内を想定して)	講義・演習	島袋　尚美
5	社会人のマナーとしてのコミュニケーション (主に臨床現場を想定して)	講義・演習	島袋　尚美
6	医療の現場におけるコミュニケーションスキル	講義・演習	島袋　尚美
7	メンタルヘルスとコミュニケーション	講義・演習	島袋　尚美
8	OSCE実施・まとめ	講義・演習	島袋　尚美

□期末試験（　　）%　■提出物（ 40 ）%　□小テスト（　　）%■実技試験（ 60 ）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

・資料は、適宜配布します。
・わからないことは、講義中でも構わないので、質問をすること。
・本講義は、主にワークショップ方式で行います。ワークショップ方式とは、小グループでディスカッションをしたり、2人1組でロールプレイをしたり、それらの体験を通して考えたことや感じた事を伝えあい、お互いの学びを共有するといった方法です。

授業科目名	解剖学						
担　当　者	清水　千草/ 石田　肇						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	120	単位数	4

授業の概要・到達目標

(概 要) 中等教育での生物学の続きとして、解剖学教育では、個体レベルの形態学の認識を深める。解剖学の理解のために、比較解剖学を念頭においた講義を先行して行い、骨学実習や解剖学実習 (2年次) を進める。

(到 達 目 標) ①講義と実習を通して、人体の正常構造を理解する。
②人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。
③解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1･2	骨学･靭帯学総論 ・ 解剖学総論、細胞、組織	講義	石田　肇
3･4	骨学･靭帯学総論 ・ 解剖学総論、細胞、組織	講義	石田　肇
5･6	骨学･靭帯学 (脊椎) ・ 人体の発生	講義	石田　肇
7･8	骨学･靭帯学 (脊椎) ・ 人体の発生	講義	石田　肇
9･10	骨学実習	講義	石田　肇
11･12	骨学･靭帯学 (頭蓋) ・ 循環系	講義	石田　肇
13･14	骨学実習	講義	石田　肇
15･16	骨学･靭帯学 (頭蓋) ・ 循環系	講義	石田　肇
17･18	骨学実習および口頭試問･まとめ･試験	講義･試験	石田　肇
19･20	骨学･靭帯学 (上肢) ・ 呼吸器系、消化器系	講義	石田　肇
21･22	骨学･靭帯学 (上肢) ・ 呼吸器系、消化器系	講義	石田　肇
23･24	骨学･靭帯学 (下肢) ・ 泌尿器系	講義	石田　肇
25･26	骨学･靭帯学 (下肢) ・ 泌尿器系	講義	石田　肇
27･28	筋学総論 ・ 生殖器系	講義	石田　肇
29･30	筋学総論 ・ 生殖器系	講義	石田　肇
31･32	筋学 (体幹) ・ 内分泌系	講義	石田　肇
33･34	筋学 (体幹) ・ 内分泌系	講義	石田　肇
35･36	筋学 (体幹) ・ 感覚器系	講義	石田　肇
37･38	筋学 (体幹) ・ まとめ ・ 試験	講義･試験	石田　肇
39･40	筋学 (上肢) ・ 神経学総論	講義	清水　千草/ 石田　肇
41･42	筋学 (上肢) ・ 神経学総論	講義	清水　千草/ 石田　肇
43･44	筋学 (上肢) ・ 神経学 (脊髄)	講義	清水　千草/ 石田　肇
45･46	筋学 (上肢) ・ 神経学 (脊髄)	講義	清水　千草/ 石田　肇
47･48	筋学 (下肢) ・ 神経学 (脳幹)	講義	清水　千草/ 石田　肇
49･50	筋学 (下肢) ・ 神経学 (脳幹)	講義	清水　千草/ 石田　肇
51･52	筋学 (下肢) ・ 神経学 (小脳)	講義	清水　千草/ 石田　肇
53･54	まとめ ・ 試験 ・ 神経学 (小脳)	講義	清水　千草/ 石田　肇
55･56	末梢神経 (脊髄神経) ・ 神経学 (大脳)	講義	清水　千草/ 石田　肇
57･58	末梢神経 (脊髄神経) ・ 末梢神経 (脳神経)	講義	清水　千草/ 石田　肇
59･60	末梢神経 (脳神経) ・ まとめ ・ 試験	講義･試験	石田　肇

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系		医学書院
書　名	著　者	出　版　社

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　解剖学		医学書院
参　考　書		
書　名	著　者	出　版　社
イラストレイテッドカラーテキスト　神経解剖学		三輪書店
書　名	著　者	出　版　社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	解剖学演習						
担　当　者	高山　千利/ 石田　肇						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 人体解剖学の学部教育では、個体レベルの形態学の認識を深めてゆく必要がある。解剖学実習では、学生たちが後に学ぶ臨床科目との兼ね合いと限られた時間の中で、重点を決めて実習を進めていく。また、画像診断の進展を考え、まさに「切り口」の違いから解剖学はできるが、画像は読めないという状況をなくすため、実習室内で様々な画像（とくに脳）と対比させながら実習を進める。

(到 達 目 標) ①実習を通して、人体の正常構造を理解する。
②人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。
③解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	オリエンテーション	演習	石田　肇
2	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
3	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
4	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
5	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
6	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
7	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
8	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
9	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
10	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
11	人体解剖学実習見学	演習	石田　肇
12	神経解剖学実習見学	演習	高山　千利
13	神経解剖学実習見学	演習	高山　千利
14	神経解剖学実習見学	演習	高山　千利
15	神経解剖学実習見学	演習	高山　千利

□期末試験（　　）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%　□実技試験（　　）%
■口頭試問（ 40 ）%　□発　表（　　）%　■その他（ 出席点 ）（ 60 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	生理学Ⅰ						
担　当　者	尾尻　義彦						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。

(到 達 目 標) ①人体のはたらきとメカニズムが理解できる。
②わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。
③要点をまとめて、わかりやすく説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	第1章　生命現象と人体	講義	尾尻　義彦
	第1章　生命現象と人体	講義	尾尻　義彦
	第2章　細胞の構造と機能	講義	尾尻　義彦
	第2章　細胞の構造と機能	講義	尾尻　義彦
	第3章　神経の興奮伝導と末梢神経	講義	尾尻　義彦
	第3章　神経の興奮伝導と末梢神経	講義	尾尻　義彦
	第4章　中枢神経系	講義	尾尻　義彦
	第4章　中枢神経系	講義	尾尻　義彦
	第5章　筋と骨	講義	尾尻　義彦
	第5章　筋と骨	講義	尾尻　義彦
	第6章　感覚	講義	尾尻　義彦
	第6章　感覚	講義	尾尻　義彦
	第7章　血液	講義	尾尻　義彦
	第7章　血液	講義	尾尻　義彦
	まとめ･試験	講義･試験	尾尻　義彦

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学		医学書院
ＰＴ・ＯＴ　基礎から学ぶ生理学　ノート		医葉薬出版

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	生理学Ⅱ						
担　当　者	尾尻　義彦						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。

(到 達 目 標) ①人体のはたらきとメカニズムが理解できる。
②わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。
③要点をまとめて、わかりやすく説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	第8章　心臓と循環	講義	尾尻　義彦
	第8章　心臓と循環	講義	尾尻　義彦
	第9章　呼吸とガスの運搬	講義	尾尻　義彦
	第9章　呼吸とガスの運搬	講義	尾尻　義彦
	第10章　尿の生成と排泄	講義	尾尻　義彦
	第10章　尿の生成と排泄	講義	尾尻　義彦
	第11章　酸塩基平衡	講義	尾尻　義彦
	第12章　消化と吸収	講義	尾尻　義彦
	第12章　消化と吸収	講義	尾尻　義彦
	第13章　内分泌	講義	尾尻　義彦
	第14章　代謝と体温	講義	尾尻　義彦
	第14章　代謝と体温	講義	尾尻　義彦
	第15章　生殖と発生･成長と老化	講義	尾尻　義彦
	第16章　運動生理	講義	尾尻　義彦
	まとめ･試験	講義･試験	尾尻　義彦

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学		医学書院
ＰＴ・ＯＴ　基礎から学ぶ生理学　ノート		医葉薬出版

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	生理学III						
担　当　者	松下　正之						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 生理学の基礎である細胞の機能と臓器や個体の制御機構を理解する。特に、本講義では神経系、感覚器、運動などの動物性生理学についての各論について講義を行う。

(到 達 目 標) ①生理学の基礎である、細胞の機能や恒常性維持機構を学ぶ。
②神経や感覚器などについて理解する。
③筋肉や骨格による運動の生理学を学ぶ。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	生理学の基礎1：細胞機能	講義	松下　正之
2	生理学の基礎2：核酸と遺伝子、幹細胞	講義	松下　正之
3	神経系の基本的機能1：神経細胞	講義	松下　正之
4	神経系の基本機能2：神経の伝達	講義	松下　正之
5	神経系の基本機能3シナプスの機能	講義	松下　正之
6	末梢神経	講義	松下　正之
7	中枢神経	講義	松下　正之
8	自律神経	講義	松下　正之
9	感覚生理1：総論、体性感覚、化学感覚	講義	松下　正之
10	感覚生理2：視覚、聴覚	講義	松下　正之
11	運動生理1：筋肉の種類と性質	講義	松下　正之
12	運動生理2：骨格筋の生理学	講義	松下　正之
13	病態生理1：精神疾患	講義	松下　正之
14	病態生理2：脳梗塞	講義	松下　正之
15	まとめ･試験	講義･試験	松下　正之

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　生理学		医学書院
ＰＴ・ＯＴ　基礎から学ぶ生理学ノート		医葉薬出版

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	生理学演習						
担　当　者	佐久田　衛/ 青野　健治/ 島袋　公史/ 平良　進						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 主たる生理機能である、心･循環･呼吸･筋活動のそれぞれについて、基本的な機能評価とそのプロセスについて学ぶ。

(到 達 目 標) 各項目について、評価の意義及び意味を説明することができる。
各項目について、検査機器の実際的操作方法を身につけ、実施できる。
各検査項目より得られたデータを解釈し、説明することができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

① 事前に項目毎の予備知識を整理しておく。⇒個々の実習の目的
② 実習進行上の手順について確実に身につけておく。
③ 手引きに不明の事項などがあれば、文献等で確認し、また指導教員に確認しておく。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	オリエンテーション (概要説明･準備･注意事項など)		青野　健治
2	事前学習 (グループ及び個別) ･呼吸①		佐久田 衛/ 島袋 公史
3	事前学習 (グループ及び個別) ･筋電図②		平良　進
4	事前学習 (グループ及び個別) ･心電図③		青野　健治
5	演習　①呼吸		佐久田 衛/ 島袋 公史
6	演習　①呼吸		佐久田 衛/ 島袋 公史
7	まとめ　①呼吸		佐久田 衛/ 島袋 公史
8	演習　②筋電図／③心電図		青野 健治/ 平良 進
9	演習　②筋電図／③心電図		青野 健治/ 平良 進
10	演習　②筋電図／③心電図		青野 健治/ 平良 進
11	演習　②筋電図／③心電図		青野 健治/ 平良 進
12	まとめ　③心電図		青野　健治
13	まとめ　②筋電図		平良　進
14	まとめ　②筋電図		平良　進
15	総まとめ		青野　健治

■期末試験（ 50 ）％　■提出物（ 25 ）％　□小テスト（　　）％ □実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　■その他（ 発表、態度など ）（ 25 ）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
ＰＴ・ＯＴ　基礎から学ぶ生理学ノート		医歯薬出版
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

わからないことは授業中、授業外を問わず質問して構わないので、学修内容を理解するよう努めること。また、講義終了後には事後学修として、該当範囲の内容の整理をしておくこと。

授業科目名	運動学総論						
担　当　者	久高　将臣						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	46	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 基礎科目で学ぶ「物理学」と、専門基礎科目で学ぶ「解剖学」および「生理学」を用いてヒトの動きをとらえるための視点を学び、運動学Ⅰや運動学Ⅱを学ぶための基礎知識を身につける。

(到 達 目 標) 1. 運動学を構成する解剖学や生理学ならびに物理学との関連を理解する。　2. 運動学の基本的用語を習得する。
3. ヒトの動きの基本的な要素を理解できる科学的思考を身につける。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	運動学とは (P1～P18)	講義	久高　将臣
2･3	身体力学の基礎 (P19～P46)	講義	久高　将臣
4	骨と関節の運動	講義	久高　将臣
5･6	運動器の構造と機能 (骨)	講義	久高　将臣
7･8	運動器の機能と構造 (関節)	講義	久高　将臣
9	運動器の機能と構造 (腱･靭帯)	講義	久高　将臣
10･11	運動器の機能と構造 (筋)	講義	久高　将臣
12･13	筋収縮のエネルギー供給･細胞の興奮ー脱分極	講義	久高　将臣
14･15	筋線維の種別と特徴･神経筋接合部、運動単位	講義	久高　将臣
16	短縮と強縮、筋張力と筋長	講義	久高　将臣
17	筋収縮の種類と実際 (求心性収縮と遠心性収縮、動筋、拮抗筋	講義	久高　将臣
18	拮抗筋の作用、固定筋の作用、二関節筋の作用	講義	久高　将臣
19	反射の基本、伸張反射	講義	久高　将臣
20	筋紡錘、相反神経支配、腱紡錘、屈曲反射、交差性反射	講義	久高　将臣
21	姿勢反射、平衡反応と重心	講義	久高　将臣
22	重心位置の計測	講義	久高　将臣
23	まとめ	講義	久高　将臣

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
基礎運動学　第6版　補訂	中村隆一、齋藤宏、長崎浩	医歯薬出版株式t会社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
標準PT・OT専門基礎　解剖学　第4版		医学書院
書　名	著　者	出　版　社
標準PT・OT専門基礎　生理学　第3版		医学書院

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

解剖学･生理学の教科書も並行して読んでみましょう。準備学習として前日に30分程度、教科書等の授業内容に該当するページに目を通しておく。事後学習とし30分程度の時間にて授業で触れた用語を再確認する。

授業科目名	運動学Ⅰ						
担　当　者	佐久田　衛						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 上肢･下肢の解剖学的及び機能的な作用を学び、ﾋﾄの身体がどのようなﾒｶﾆｽﾞﾑで動くかを運動学的視点から解釈し、病的運動を理解するための基礎知識を学習する。

(到 達 目 標) 四肢に関係する機能解剖を理解する。
骨、関節、靭帯及び筋の働きを学び、運動器としての機能を理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①2回目以降は講義開始時に毎回、小ﾃｽﾄを行う。
②講義で配布する資料や文書等をｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	肩甲帯の運動	講義	佐久田　衛
2	機能的肩関節、解剖学的肩関節の運動	講義	佐久田　衛
3	肩甲帯の筋と支配神経	講義	佐久田　衛
4	肘･前腕の運動	講義	佐久田　衛
5	肘･前腕の筋と支配神経	講義	佐久田　衛
6	手･手指の構造と機能	講義	佐久田　衛
7	手･手指の運動	講義	佐久田　衛
8	手･手指の筋と支配神経	講義	佐久田　衛
9	股関節の運動	講義	佐久田　衛
10	股関節の筋と支配神経	講義	佐久田　衛
11	膝関節の運動	講義	佐久田　衛
12	膝関節の筋と支配神経	講義	佐久田　衛
13	足関節･足部の運動	講義	佐久田　衛
14	足関節･足部の筋と支配神経	講義	佐久田　衛
15	まとめ	講義	佐久田　衛

■期末試験（ 60 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 40 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
基礎運動学	中村隆一	医歯薬出版株式会社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

わからないことがあれば講義中でも構わないので質問すること。講義内容の範囲を教科書で予習･復習をすると理解が深まります。

授業科目名	運動学Ⅱ						
担　当　者	平良　進						
開講年次	3年	開講期	3年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 頚部･体幹･胸郭･骨盤の解剖学及び機能的作用を学び、臨床における異常な運動を解析するために必要な姿勢、正常歩行について、基礎知識を学習する。

(到 達 目 標) 体幹に関係する機能解剖を理解する。
骨、関節、靱帯及び筋の働きを学び、運動器としての機能を理解する。
体節の各運動器が共同して起こる姿勢や正常歩行を学び、異常動作との違いを理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

小テストを実施し、前回講義の確認を行う。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	体幹(骨盤)の運動	講義	平良　進
	体幹(骨盤)の運動	講義	平良　進
	体幹(骨盤)の運動	講義	平良　進
	体幹(骨盤)の運動	講義	平良　進
	胸郭の運動	講義	平良　進
	胸郭の運動	講義	平良　進
	顔面(咀嚼)の運動	講義	平良　進
	姿勢と身体重心	講義	平良　進
	姿勢と身体重心	講義	平良　進
	正常歩行(歩行周期、重心移動、関節角度、筋収縮、床反力)	講義	平良　進
	正常歩行(歩行周期、重心移動、関節角度、筋収縮、床反力)	講義	平良　進
	正常歩行(歩行周期、重心移動、関節角度、筋収縮、床反力)	講義	平良　進
	正常歩行(歩行周期、重心移動、関節角度、筋収縮、床反力)	講義	平良　進
	正常歩行(歩行周期、重心移動、関節角度、筋収縮、床反力)	講義	平良　進
	まとめ	試験	平良　進

■期末試験（ 50 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 50 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 提出物は必要時に実施する。 ）（ 0 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
基礎運動学	中村隆一	医歯薬出版
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	専門基礎セミナーⅠ						
担　当　者	専任教員						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 1年次に学習する専門基礎分野の科目(特に解剖学･生理学･運動学)について、セミナー形式での演習を通して理解を深めるとともに、各科目の学習が円滑に進められるように、学習の計画や方法について実践を通じて学ぶ。

(到 達 目 標) 理学療法学の基礎となる解剖学･生理学･運動学の理解を深める

履修における注意事項（受講ルールなど）

各指導教員の指示に従うこと

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1～14	学習計画の立案 授業ノート、ファイルの作成について 解剖学、運動学、生理学の復習 など		専任教員
15	まとめと確認試験		専任教員

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	病理学						
担　当　者	非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 人体の病的な状態を、主に肉眼･顕微鏡を利用した形態学的観察により得られるを基に、疾病の成因や生体反応の意義を認識する学問であり、昨今では分子レベルでの反応を含んだ病因を追求する学問である。人体病態総論とそれぞれの病態の臓器別の疾患を概説する。

(到 達 目 標) ①人体における疾患の原因を理解できる。
②病態の専門用語を理解できる。
③臓器別の疾患を理解できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	はじめに･疾病の成因概論	講義	非常勤講師
2	先天異常	講義	非常勤講師
3	環境の関わりと代謝障害	講義	非常勤講師
4	循環障害	講義	非常勤講師
5	生体防御とその破綻	講義	非常勤講師
6	感染症	講義	非常勤講師
7	腫瘍	講義	非常勤講師
8	循環器	講義	非常勤講師
9	消化器	講義	非常勤講師
10	呼吸器	講義	非常勤講師
11	内分泌器	講義	非常勤講師
12	生殖器･乳腺、腎･尿路系	講義	非常勤講師
13	運動器系、脳･神経系	講義	非常勤講師
14	歯･口腔系、感覚器系、造血器系	講義	非常勤講師
15	まとめ･試験	講義･試験	非常勤講師

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
カラーで学べる病理学		ヌーベルヒロカワ
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	神経内科学						
担　当　者	遠藤　一博/ 崎間　洋邦/ 神里　尚美/ 西村　正彦/ 仲地　耕/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	52	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) PT・OTに必要な神経系機能解剖と疾患の病態を理解させる。

(到 達 目 標) ①病態を理解するための神経機能解剖を学ぶ。
②正しい神経学用語を身につける。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	神経診察法 (意識の神経機構・生理・解剖)	講義	神里　尚美
2	神経診察法 (頭蓋内圧の神経機構、てんかん・脳波、感染症)	講義	神里　尚美
3	筋疾患 (自己免疫機構、多発筋炎、重症筋無力症)	講義	神里　尚美
4	筋疾患 (分子遺伝、筋ジストロフィー、代謝性疾患)	講義	神里　尚美
5	末梢神経障害 (自己免疫機構、GBS／CIDP)	講義	神里　尚美
6	神経診察法 (脳神経の生理・解剖)	講義	崎間　洋邦
7	神経診察法 (感覚系の生理・解剖)	講義	崎間　洋邦
8	神経診察法 (運動系・反射の生理・解剖)	講義	崎間　洋邦
9	神経診察法 (協調運動・自律神経の生理・解剖)	講義	崎間　洋邦
10	神経診察法 (痙縮の生理・解剖、ボツリヌス治療)	講義	非常勤講師
11	神経診察法 (高次機能の生理・解剖)	講義	遠藤　一博
12	中枢神経系・脱髄、変性	講義	遠藤　一博
13	中間試験・まとめ	講義・試験	
14	脳血管障害 (脳梗塞の病型、疫病)	講義	仲地　耕
15	脳血管障害 (脳梗塞の治療、地域連携を含めて)	講義	仲地　耕
16	神経放射線	講義	西村　正彦
17	脳腫瘍	講義	西村　正彦
18	水頭症、脊髄空洞症	講義	西村　正彦
19	頭部外傷・感染症	講義	西村　正彦
20	末梢神経障害 (ALS)	講義	神里　尚美
21	分子遺伝 (メンデル遺伝、トリプレットリピート、ミトコンドリア遺伝)	講義	神里　尚美
22	神経診察法 (小脳の生理・解剖) 、脊髄小脳変性症	講義	神里　尚美
23	基底核疾患 (パーキンソン病など)	講義	神里　尚美
24	基底核疾患 (ジストニア、ボツリヌス治療)	講義	神里　尚美
25	予備日、試験対策	講義	神里　尚美
26	期末試験・まとめ	講義・試験	

■期末試験 （ 50 ） %　□提出物 （　　） %　□小テスト （　　） %　□実技試験 （　　） %
□口頭試問 （　　） %　□発　表 （　　） %　■その他 （ 中間試験 ） （ 50 ） %
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学作業療法学専門分野		医学書院
書　名	著　者	出　版　社
神経内科学		

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
絵でみる脳と神経		医学書院

書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	精神医学						
担　当　者	宮平　良尚						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	60	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 精神医学の基礎と臨床を学び、精神科リハビリテーションを理解する。

(到 達 目 標) ①精神疾患を理解して説明できる。
②精神科リハビリテーションについて理解を深める。
③精神障害者に対する理解を深める。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	精神医学序論	講義	宮平　良尚
2	医学心理学	講義	宮平　良尚
3	精神症状学	講義	宮平　良尚
4	精神医学的診断学	講義	宮平　良尚
5	統合失調症（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
6	統合失調症（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
7	気分障害（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
8	気分障害（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
9	症状･器質性精神障害	講義	宮平　良尚
10	てんかん	講義	宮平　良尚
11	アルコール･薬物による精神障害	講義	宮平　良尚
12	治療論（薬物療法）	講義	宮平　良尚
13	治療論（精神療法、生活療法）	講義	宮平　良尚
14	中間特論	講義	宮平　良尚
15	中間まとめ･試験	講義	宮平　良尚
16	神経症（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
17	神経症（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
18	睡眠障害	講義	宮平　良尚
19	心身症	講義	宮平　良尚
20	パーソナリティ障害	講義	宮平　良尚
21	児童･思春期精神医学（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
22	児童･思春期精神医学（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
23	老年期精神医学（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
24	老年期精神医学（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
25	精神医学と社会（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
26	精神医学と社会（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
27	精神科リハビリテーション（Ⅰ）	講義	宮平　良尚
28	精神科リハビリテーション（Ⅱ）	講義	宮平　良尚
29	期末特論	講義	宮平　良尚
30	期末まとめ･試験	講義･試験	宮平　良尚

■期末試験（ 90 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 出席状況・態度 ）（ 10 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
STEP精神科		海馬書房
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書		
書　名	著　者	出　版　社
現代臨床精神医学	大熊　輝雄	
書　名	著　者	出　版　社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
講義および教科書から得られた知識を、参考書などでさらに広げて理解を深めてください。		

授業科目名	一般臨床医学Ⅰ						
担　当　者	非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) わが国は超高齢社会となり、内科的疾患をもつリハビリテーション対象者が急増している。内科的疾患の病態や老化現象を理解し、適切なリハビリテーションを行う上での基盤を築く。

(到達目標) 内科的疾患の症候、診断学的手法について説明できる。
臓器や組織の解剖、生理機能について説明できる。
各疾患の概念、病態および老化現象について説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講義内容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	医学一般総論・概論1	講義	非常勤講師
2	医学一般総論・概論2	講義	非常勤講師
3	循環器疾患1	講義	非常勤講師
4	循環器疾患2	講義	非常勤講師
5	代謝・内分泌疾患1	講義	非常勤講師
6	代謝・内分泌疾患2	講義	非常勤講師
7	呼吸器疾患1	講義	非常勤講師
8	呼吸器疾患2	講義	非常勤講師
9	腎・泌尿器疾患1	講義	非常勤講師
10	腎・泌尿器疾患2	講義	非常勤講師
11	膠原病・アレルギー疾患	講義	非常勤講師
12	感染性疾患	講義	非常勤講師
13	老年医学1	講義	非常勤講師
14	老年医学2	講義	非常勤講師
15	皮膚疾患	講義	非常勤講師
16	まとめ・試験	講義・試験	

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学作業療法学専門分野　内科学		医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
病気がみえる　7　脳・神経		MEDIC MEDIA
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	一般臨床医学 II						
担　当　者	非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	16	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 骨格･運動器系疾患、中枢神経系疾患、血管性障害などについて、画像診断の特徴的な所見を学ぶ。
薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解したうえで、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝでの機能回復を円滑に進めるためには、栄養状態が良好なことが必要である。そのために必要な栄養に関する基礎

(到 達 目 標) ﾚﾝﾄｹﾞﾝ、CT、MRI画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。
薬物の基本事項 (作用機序、投与方法、体内動態など) 、対象疾患に対する薬物療法について理解し説明できる。
摂食･嚥下障害、サルコペニアなどの主な病態の栄養療法についての知識を修得する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為 (主に私語) を禁止する。
②携帯電話等のｶﾒﾗ機能を使用した黒板およびｽﾗｲﾄﾞの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	画像診断の基礎	講義	非常勤講師
2	画像診断 (各疾患の特徴的所見)	講義	非常勤講師
3	薬理学	講義	非常勤講師
4	薬理学	講義	非常勤講師
5	薬理学	講義	非常勤講師
6	薬理学	講義	非常勤講師
7	栄養の基礎 栄養素の役割	講義	非常勤講師
8	運動時の栄養 おもな病態の栄養療法 (低栄養、摂食障害、嚥下障害、サルコペニア、ﾛｺﾓﾃｨﾌﾞｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ、ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ)	講義	非常勤講師

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	救急救命法						
担　当　者	非常勤講師						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	24	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) リハビリテーションの対象となる患者では呼吸循環系に危険因子を持つことも多く、リハビリテーション実施中に起こる急変に敏速に対応できることが必要である。
そこで本科目では、感染コントロールと吸引、ならびにBasic life support(BLS)などの医療的処置を学習する。

(到 達 目 標) ① 理学療法場面で起こりえる医療事故 (インシデントを含む) やリスクを列挙できる
② 一次救命処置 (BLS) について説明できる
③ 一次救命処置 (BLS) が実施できる
④ 吸引の意義や生体に与える影響について理解し、標準予防策および吸引の基本的な手順を実践できる

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1～8	急変時の対応と一次救命処置 [BLS] の基本	講義・実技	非常勤講師
9～10	吸引の基本手技、標準予防策 (スタンダードプレコーション)	講義	非常勤講師
11～12	吸引の基本手技、標準予防策 (スタンダードプレコーション)	実技	非常勤講師

■期末試験（ 70 ）%　■提出物（ 30 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	整形外科学						
担　当　者	翁長　正道/ 金城　英雄/ 金城　政樹/ 金城　忠克/ 山川　慶/ 上原　史成/ 神谷　武志/ 石原　昌人/ 大城　裕理						
開 講 年 次	2年	開 講 期	2年前期,2年後期	授 業 回 数	46	単 位 数	2

授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標

(概 要) 基礎から臨床まで幅広く整形外科を学ぶ。

(到 達 目 標) ①運動器の構造を学ぶ。
②運動器疾患の臨床を理解する。
③得た知識をリハビリに応用できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	整形外科とは (歴史､診断､治療)	講義	当真　孝
2	運動器疾患の診断法	講義	非常勤講師
3	運動器の構造Ⅰ (骨、軟骨の生理･構造)	講義	非常勤講師
4	運動器の構造Ⅱ (筋･神経･関節)	講義	非常勤講師
5	運動器の治療法	講義	非常勤講師
6	代謝性骨疾患 (骨粗鬆症など)	講義	金城　英雄
7	運動器 (骨･関節･筋) の感染症	講義	非常勤講師
8	関節リウマチ (類縁疾患)	講義	東　千夏
9	慢性関節疾患 (退行性･代謝性)	講義	翁長　正道
10	外傷	講義	金城　忠克
11	スポーツ整形外科	講義	上原　史成
12	小児整形外科 (総論)	講義	非常勤講師
13	運動器疾患のリハビリテーション(総論)	講義	神谷　武志
14	運動器疾患の理学療法	講義	長嶺　覚子
15	中間まとめ･試験	講義･試験	
16	肩･上腕･肘	講義	金城　忠克
17	前腕･手関節･手	講義	仲宗根　素子
18	股関節	講義	仲宗根　哲
19	膝関節	講義	比嘉　浩太郎
20	足関節･足	講義	東　千夏
21	末梢神経	講義	金城　政樹
22	頚胸椎	講義	山川　慶
23	腰椎	講義	島袋　孝尚
24	脊髄損傷	講義	山川　慶
25	小児整形外科 (各論･変形矯正)	講義	神谷　武志
26	運動器疾患のリハビリテーション(各論)	講義	非常勤講師
27	外傷 (上肢･小児の骨折)	講義	大中　敬子
28	外傷 (下肢･高齢者の骨折)	講義	石原　昌人
29	骨軟部腫瘍 (各論)	講義	大城　裕理
30	期末まとめ･試験	講義･試験	

■期末試験（ 50 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 中間試験 ）（ 50 ）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
病気が見える　Vol. 11　運動器・整形外科　MEDIC　MEDIA		
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書		
書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	小児科学						
担　当　者	宮城　裕子						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	20	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 一般的な子供の病気と治療法。国家試験対策。

(到 達 目 標) ①一般的な子供の病気について説明できるようになる。
②一般的な子供の病気に対処できるようになる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

講義中の私語はつつしむこと。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	こどもの発熱	講義	宮城　裕子
2	こどもの腹痛	講義	宮城　裕子
3	こどもの循環器	講義	宮城　裕子
4	呼吸器疾患（気管支喘息）	講義	宮城　裕子
5	皮膚疾患（ｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎）	講義	宮城　裕子
6	こどもの頭痛	講義	宮城　裕子
7	予防接種について	講義	宮城　裕子
8	川崎病	講義	宮城　裕子
9	症例紹介	講義	宮城　裕子
10	まとめ･試験	講義･試験	宮城　裕子

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

期末試験は講義中に行う、小テストから100%出題する。
国試問題は早めに購入し、問題に慣れて欲しい。

授業科目名	臨床心理学						
担　当　者	兼久　満						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) この講義では広く臨床心理学を概観し、基本を身につけて、心の側面から人間理解を深める事を目標とする。

(到達目標) ①臨床心理学の基本を身につける。
②面接技法の基本を練習する。
③本講義をとおして自己理解を深める。

履修における注意事項（受講ルールなど）

講義中のおしゃべり禁止

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	臨床心理学　事始め	講義	兼久　満
2	臨床心理学とは	講義	兼久　満
3	心理臨床　事例紹介	講義	兼久　満
4	心理アセスメント	講義	兼久　満
5	臨床心理学的介入	講義	兼久　満
6	心理面接技法	講義	兼久　満
7	精神分析	講義	兼久　満
8	行動療法	講義	兼久　満
9	人間性心理学と来談者中心療法	講義	兼久　満
10	認知行動療法	講義	兼久　満
11	トランスパーソナル心理学	講義	兼久　満
12	プロセス指向心理学	講義	兼久　満
13	EMDR･その他	講義	兼久　満
14	マインドフルネス　他	講義	兼久　満
15	まとめ･試験	講義･試験	兼久　満

■期末試験（ 85 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 出席日数 ）（ 15 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

臨床心理学は知識だけではなく、体験することが大切です。
講義では面接技法の基礎を学びます。身につけて将来に生かして下さい。

授業科目名	医学特論						
担　当　者	宮平　誠司						
開 講 年 次	1年	開 講 期	1年前期	授 業 回 数	16	単 位 数	1

授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標

(概 要) 命の大切さを理解し、患者さんの社会的背景を考慮しながら、個々人にとって最善の医療を行えるスペシャリストを育成する。

(到 達 目 標) ①自らすすんで勉強し、生涯学習の姿勢を身につける。
②患者さんの身体を治すだけでなく、不安を取り除くことができる。
③基本的な挨拶など、対人関係におけるマナーを身につけ、思いやりの心で接する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

ハキハキと大きな声で返事し、皆に聞こえるように音読する。
私語は慎む。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	人間の生命を考える		宮平　誠司
	人間の生命を考える		宮平　誠司
	病気の原因、病気による身体の変化		宮平　誠司
	病気の原因、病気による身体の変化		宮平　誠司
	病気の治療とリハビリテーション		宮平　誠司
	病気の治療とリハビリテーション		宮平　誠司
	医学および看護の生命へのアプローチ		宮平　誠司
	医学および看護の生命へのアプローチ		宮平　誠司
	まとめ･試験		宮平　誠司

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
医学概論		医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

復習に重点をおく。
講義の翌日までに教科書を読みなおす。

授業科目名	専門基礎セミナーII						
担　当　者	専任教員						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 1、2年次に学習する専門基礎分野の科目について、セミナー形式での演習を通して理解を深めるとともに、ゼミメンバーが相互に知識や学習方法を共有する。

(到 達 目 標) 今までに学び、身につけた専門基礎知識について整理する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

各指導教員の指示に従うこと

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1～14	各指導教員の指示に従う	講義	専任教員
15	まとめ	講義	専任教員

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	リハビリテーション概論Ⅰ						
担　当　者	安里　隆						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) リハビリテーションとは何か学ぶ。

(到 達 目 標) ①今後の学習の基礎知識を学ぶ。
②国家試験に備えた知識を習得する。
③生涯学習の基礎を固める。

履修における注意事項（受講ルールなど）

予習をすること。
授業中の退席は認めない。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	A－1、2　リハとは？　医療･福祉･保健	講義	安里　隆
	A－3、4、5　マインド廃用、回復期	講義	安里　隆
	A－6、7　維持、傷害	講義	安里　隆
	A－9　PT	講義	安里　隆
	A－10、11　OT･ST	講義	安里　隆
	A－12、13　看護、チーム	講義	安里　隆
	A－14、15　評価	講義	安里　隆
	A－16　能力障害	講義	安里　隆
	A－17、18　歩行、装具	講義	安里　隆
	A－19、20　義足、車椅子	講義	安里　隆
	A－21　法律	講義	安里　隆
	A－22　地域	講義	安里　隆
	予備	講義	安里　隆
	予備	講義	安里　隆
	まとめ･試験	講義･試験	安里　隆

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
リハビリテーション総論		診断と治療社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	リハビリテーション概論Ⅱ						
担　当　者	非常勤講師						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 障害者や高齢者における自立生活について、まず自立の意義から学修を進め、それを支援する意義や方法、制度について理解を深める。自立支援には対象者と対象者を取り巻く環境を吟味することが求められるため、様々な職種の立場から自立生活支援に関わる技術・手法を学ぶことにより、包括的に自立支援を考えていく。

(到 達 目 標) “自立生活”の意義を考え、理解できる
“自立生活”を支える制度が理解できる
“自立生活”を支援することを実際に考えることができる

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	国際支援における理学療法士の役割		非常勤講師
2	国際支援の実際		非常勤講師
3	災害時における活動支援の概要		非常勤講師
4	災害時の理学療法士の役割		非常勤講師
5	地域包括ケアシステムとは		非常勤講師
6	地域包括ケアシステムにおける街づくりでの理学療法士の役割		非常勤講師
7	自立とは①～自立と自律～		非常勤講師
8	自立とは②～ノーマライゼーションの理念～		非常勤講師
9	自立生活支援について		非常勤講師
10	就労支援とは　障がい者雇用・就労の動向		非常勤講師
11	労働施策の概要と労働法規の概要		非常勤講師
12	就労支援制度・サービスの概要　就労支援に係る専門職の役割		非常勤講師
13	障害者スポーツ支援の概要		非常勤講師
14	障害者スポーツ支援における理学療法士の役割		非常勤講師
15	まとめ		非常勤講師

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	リハビリテーション医学						
担　当　者	安里　隆						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) リハビリテーションに関した知識を深める。

(到 達 目 標) ①リハビリテーションに関する基礎知識を深める。
②国家試験に備えた知識を習得する。
③生涯学習の基礎を固める。

履修における注意事項（受講ルールなど）

予習をすること。
授業中の退席は認めない。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	B－1、2　拘縮、筋力低下	講義	安里　隆
	B－3、4　運動麻痺、運動学習	講義	安里　隆
	B－5、6　異常歩行、失語症	講義	安里　隆
	B－7、8　失認、失行、高次脳	講義	安里　隆
	B－7、8　失認、失行、高次脳	講義	安里　隆
	C－1、2　脳卒中	講義	安里　隆
	C－3、4　パーキンソン、MS	講義	安里　隆
	C－5　神経、筋	講義	安里　隆
	C－6、7　脊髄損傷、外傷性脳損傷	講義	安里　隆
	C－8、9　切断、運動器	講義	安里　隆
	C－10　RA	講義	安里　隆
	C－12　CP	講義	安里　隆
	C－13、14、15　その他	講義	安里　隆
	予備	講義	安里　隆
	まとめ･試験	講義･試験	安里　隆

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
リハビリテーション総論		診断と治療社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	社会福祉学						
担　当　者	宮城　美智子						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) この講義は、人･社会･生活と福祉の理解に関する知識と方法について学ぶことを目的とする。また、保健医療と福祉の連携についてもふれる。

(到 達 目 標) ①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
②福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。
③福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む) について理解する。
福祉政策と関連政策 (教育政策･住宅政策･労働政策を含む) の関係について理解する。
相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

私語はつつしむこと。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	オリエンテーション	講義	宮城　美智子
2	現代社会における福祉制度と福祉政策①	講義	宮城　美智子
3	現代社会における福祉制度と福祉政策②	講義	宮城　美智子
4	福祉の原理をめぐる理論と哲学①	講義	宮城　美智子
5	福祉制度の発達過程①	講義	宮城　美智子
6	福祉制度の発達過程②	講義	宮城　美智子
7	福祉政策におけるニーズと資源①	講義	宮城　美智子
8	福祉政策の課題①	講義	宮城　美智子
9	福祉政策の課題②	講義	宮城　美智子
10	福祉政策の構成要素①	講義	宮城　美智子
11	福祉政策の構成要素②	講義	宮城　美智子
12	福祉政策の構成要素③	講義	宮城　美智子
13	福祉政策と関連政策①	講義	宮城　美智子
14	相談援助活動と福祉政策①	講義	宮城　美智子
15	まとめ･試験	講義･試験	宮城　美智子

■期末試験（ 60 ）%　■提出物（ 20 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 20 ）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
新・社会福祉養成講座―４		中央法規
現代社会と福祉		

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

医療や福祉サービスを必要とする方がたの良き理解者となることを目指して、真摯な姿勢で学んでほしい。

授業科目名	理学療法概論Ⅰ						
担　当　者	砂川　昌信						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法を学ぶに当たり、基本的な態度と知識を身につける。そのため理学療法の歴史、関係法則、障害モデルなどを包括的に俯瞰する。

(到 達 目 標) リハビリテーションにおける理学療法士の位置づけを説明できる。
理学療法について理解を深め、今後修得が必要な専門知識の概要を理解する。
理学療法士を目指す学生に必要な能動的学習姿勢を身につける。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	オリエンテーション	講義	砂川　昌信
2	目指す理学療法士像と実現のための方策（グループ討議）	講義	砂川　昌信
3	目指す理学療法士像と実現のための方策（グループ発表）	講義	砂川　昌信
4	理学療法の概念と歴史	講義	砂川　昌信
5	理学療法士の法律	講義	砂川　昌信
6	理学療法士の関連法規	講義	砂川　昌信
7	理学療法の意義と役割	講義	砂川　昌信
8	理学療法の対象	講義	砂川　昌信
9	理学療法の方法（運動療法）	講義	砂川　昌信
10	理学療法の方法（物理療法）	講義	砂川　昌信
11	理学療法士の組織と理学療法士教育	講義	砂川　昌信
12	個人情報の管理と対象者の権利	講義	砂川　昌信
13	臨床教育の実践	講義	砂川　昌信
14	理学療法士と研究	講義	砂川　昌信
15	まとめ	講義	砂川　昌信

■期末試験（ 90 ）%　■提出物（ 10 ）%　□小テスト（　　）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
理学療法概論　第４版	千住秀明	神菱文庫
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
リハビリテーション総論　要点と用語解説　改訂第2版	椿原彰夫	診断と治療社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

分からないこと、疑問に思ったことなどは講義名および講義終了後でも構わないので質問すること。

授業科目名	理学療法概論 II						
担　当　者	石田　隆志						
開 講 年 次	1年	開 講 期	1年後期	授 業 回 数	30	単 位 数	1

授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標

(概 要) 理学療法に共通する機能障害の病態やそのメカニズムについて学びます。
本講義は提示された問題に対して、学習者が主体的に調査学習し、発表をするProblem Based Learning (以下PBL) を取り入れた形式で教授されます。

(到 達 目 標) 1.機能障害の病態やそのメカニズムを教科書や文献を用いて調べることができる。
2.機能障害の病態やそのメカニズムについて調べた内容を要約し、文書にまとめることができる。
3.機能障害の病態やそのメカニズムについて調べた内容を発表できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

本講義は学生が主体的に学ぶPBLに準じた形式で行われます。みなさん積極的に学びその成果を発表するようにして下さい。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
	関節可動域制限の病態とそのメカニズム	講義	
	筋力低下の病態とそのメカニズム	講義	
	1、2について発表	講義	
	創傷, 靭帯損傷の病態とそのメカニズム	講義	
	骨損傷 (骨折, 疲労骨折など) の病態とそのメカニズム	講義	
	4、5について発表	講義	
	運動麻痺の病態とそのメカニズム	講義	
	感覚異常の病態とそのメカニズム	講義	
	7、8ついて発表	講義	
	筋緊張異常の病態とそのメカニズム	講義	
	平衡機能低下の病態とそのメカニズム	講義	
	10、11ついて発表	講義	
	疼痛の病態とそのメカニズム	講義	
	認知機能低下の病態とそのメカニズム	講義	
	13、14について発表	講義	

■期末試験（ 30 ）%　■提出物（ 30 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 40 ）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

本講義を通して、調べ方、学び方などを身に付けていきましょう。

授業科目名	臨床運動学						
担　当　者	毛利　光宏						
開講年次	3年	開講期	3年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 動作分析の基本として力学的に重心位置と動作の関係を理解し、観察のためのポイントを習得し、説明できるようにする。

(到 達 目 標) 1. 支持基底面と重心の高さの関係を理解する。
2. 基本動作と重心の関係を理解する。
3. 基本動作の観察のポイントを理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	概要説明および静止物と回転運動について	講義	毛利　光宏
2	動作時の基本：固定と可動について	講義	毛利　光宏
3	剛体と分節運動	講義	毛利　光宏
4	カウンターウエイト、重心移動	講義	毛利　光宏
5	臥位姿勢での中枢部と末梢部	講義	毛利　光宏
6	寝返り動作の相分けと観察ポイント	講義	毛利　光宏
7	寝返り動作の確認と操作	講義	毛利　光宏
8	立ち上がり動作の相分けと観察ポイント	講義	毛利　光宏
9	立ち上がり動作の重心移動分析①（計測）	講義	毛利　光宏
10	立ち上がり動作の重心移動分析②（データ処理）	講義	毛利　光宏
11	演習発表とディスカッション	講義	毛利　光宏
12	歩行運動の重心移動分析①（計測）	講義	毛利　光宏
13	歩行運動の重心移動分析②（データ処理）	講義	毛利　光宏
14	演習発表とディスカッション	講義	毛利　光宏
15	まとめ	講義･試験	毛利　光宏

■期末試験（ 50 ）%　■提出物（ 20 ）%　■小テスト（ 30 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
誰でもわかる動作分析	小島正義	南江堂
書　名	著　者	出　版　社
動作分析　臨床活用講座	石井慎一郎	メディカルビュー

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

必要な資料は配布します。

授業科目名	理学療法特論						
担　当　者	専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	120	単位数	4

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法教育基礎、専門基礎および理学療法専門の知識の整理を行う。

(到 達 目 標) 基礎分野の各個人の不得意分野を確認し取り組むことができる。
専門分野の各個人の不得意分野を確認し取り組むことができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1･2	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
3･4	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
5･6	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
7･8	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
9･10	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
11･12	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
13･14	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
15･16	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
17･18	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
19･20	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
21･22	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
23･24	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
25･26	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
27･28	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
29･30	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
31･32	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
33･34	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
35･36	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
37･38	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
39･40	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
41･42	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
43･44	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
45･46	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
47･48	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
49･50	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
51･52	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
53･54	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
55･56	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
57･58	知識のまとめ (学内模試･業者模試･分野別特異別講義･グループ学習)		専任教員/非常勤講師
59･60	まとめ		専任教員

■期末試験（ 60 ）%　■提出物（ 40 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	**著　者**	**出　版　社**

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	理学療法管理学Ⅰ						
担　当　者	青野　健治						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。また、臨床の現場で理学療法士に求められる高い倫理観や生涯学習の必要性について学習する。

(到 達 目 標) ① 理学療法教育の概要について説明できる。
② コンプライアンス･法令違反について説明できる。
③ 診療報酬について説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	オリエンテーション (授業の概要と求める態度)	講義	青野　健治
2	管理とは	講義	青野　健治
3	自己管理	講義	青野　健治
4	組織の管理	講義	青野　健治
5	目標の設定と時間管理	講義	青野　健治
6	理学療法士養成教育 (歴史･内容)	講義	青野　健治
7	診療参加型臨床実習について	講義	青野　健治
8	臨床実習前後の評価 (OSCE 等) について	講義	青野　健治
9	理学療法士国家試験の出題基準	講義	青野　健治
10	生涯学習制度について	講義	青野　健治
11	職業倫理 (コンプライアンス･法令違反)	講義	青野　健治
12	職業倫理 (守秘義務、個人情報保護)	講義	青野　健治
13	理学療法の実施とその対価 (医療保険制度と診療報酬)	講義	青野　健治
14	理学療法の実施とその対価 (介護保険制度と介護報酬)	講義	青野　健治
15	まとめ	講義	青野　健治

■期末試験（ 60 ）%　■提出物（ 20 ）%　□小テスト（　　）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ グループ内評価 ）（ 20 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	理学療法管理学Ⅱ						
担　当　者	久高　将臣						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学ぶ。理学療法士として、職業倫理やチーム医療における理学療法士の役割について理解するとともに、病院･施設の組織および記録･報告、臨床におけるﾘｽｸ管理、の理学療法部門の管理運営について学習する。

(到 達 目 標) 理学療法部門の管理･運営について説明できる。
医療専門職として倫理感を有し、理学療法を遂行できる。
チーム医療を認識し、その中での理学療法士の役割について説明できる。
医療事故の原因を理解し、事故の予防に努め、ﾘｽｸ管理ができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のｶﾒﾗ機能を使用した黒板およびｽﾗｲﾄﾞの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	講義	久高　将臣
2	臨床教育の方法 (ﾒﾝﾀｰ制, ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰ制など)	講義	久高　将臣
3	理学療法の実施における他職種との関わり (処方内容の確認, 他職種への申し送り、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	講義	久高　将臣
4	診療 (記) 録と記載責任、保管と記録集計	講義	久高　将臣
5	理学療法機器の保守点検･安全管理、医療広告ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ	講義	久高　将臣
6	理学療法研究における倫理	講義	久高　将臣
7	人事考課 (職員採用･昇格審査など)	講義	久高　将臣
8	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ、労務管理 (勤務時間･休暇管理など)	講義	久高　将臣
9	ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ-ﾊｲﾝﾘｯﾋの法則、医療事故、医療過誤、ﾋﾔﾘ･ﾊｯﾄ (ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ)	講義	久高　将臣
10	ｽﾄﾚｽの対処法、体調管理	講義	久高　将臣
11	対象者･他職種との利害衝突ならびにｺﾝﾌﾘｸﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	講義	久高　将臣
12	理学療法士と起業 (起業に必要な知識、具体的な起業方法)	講義	久高　将臣
13	理学療法士とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ1-自己分析と適正	講義	久高　将臣
14	理学療法士とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ2-自分のｷｬﾘｱをﾃﾞｻﾞｲﾝする	講義	久高　将臣
15	まとめ	講義･試験	久高　将臣

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	理学療法評価学Ⅰ						
担　当　者	佐久田　衛/ 島袋　公史						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) EBPT につながる基本として，理学療法士が行う検査測定結果から目標設定，理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。

(到 達 目 標) 理学療法における評価の目的や留意点、進め方について説明できる。
理学療法評価･臨床推論の流れを説明することができる。
診療ガイドラインや臨床実習の流れについて説明することができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①他の学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1～2	評価の基本概念 (評価と目的)	講義･演習	島袋　公史
3～4	評価の基本概念 (構成要素)	講義･演習	島袋　公史
5～6	評価の流れ、記載方法	講義･演習	島袋　公史
7～8	評価の解釈と例題検討	講義･演習	島袋　公史
9～10	診療ガイドライン	講義･演習	島袋　公史
11	キャリアマネジメント	講義･演習	佐久田　衛
12～13	クリティカルシンキング	講義･演習	佐久田　衛
14	目標設定	講義･演習	佐久田　衛
15	診療参加型実習	講義	佐久田　衛

□期末試験（　　）%　■提出物（ 50 ）%　■小テスト（ 20 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 30 ）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
理学療法評価学　改訂第6版	松澤正・江口勝彦	金原出版株式会社
書　名	**著　者**	**出　版　社**

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	**著　者**	**出　版　社**

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･わからないことなどがあれば、講義中でもかまわないので質問するようにしましょう。
･参考資料は適時配布します。

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ						
担　当　者	佐久田　衛						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 疾病や障害から生ずる機能障害を把握するために理学療法士が実施する種々の検査測定技術を習得し、その結果の解釈について学ぶ

(到 達 目 標) 機能形態測定 (四肢長、周径など) が実施できる
関節可動域の程度と関連要因を把握する評価が実施できる

履修における注意事項（受講ルールなど）

実技が主になる講義なので動きやすい格好または適切な露出ができるよう準備をすること。
爪切りや髪を結ぶなど衛生管理をするようにしてください。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	姿勢と機能形態	講義･実技	佐久田　衛
2～5	形態測定 (身長、体重、四肢長、四肢周径)	実技	佐久田　衛
6	形態測定 (結果から解釈)	実技	佐久田　衛
7	形態測定まとめ	講義･実技	佐久田　衛
8	関節可動域 総論	講義･実技	佐久田　衛
9	関節可動域 (肩甲帯･肩関節)	実技	佐久田　衛
10	関節可動域 (肘･手関節)	実技	佐久田　衛
11	関節可動域 (股関節)	実技	佐久田　衛
12	関節可動域 (膝･足関節)	実技	佐久田　衛
13	関節可動域 (頸部)	実技	佐久田　衛
14	関節可動域 (胸腰部)	実技	佐久田　衛
15	関節可動域まとめ	講義･実技	佐久田　衛

■期末試験（ 50 ）%　■提出物（ 10 ）%　□小テスト（　　）%■実技試験（ 40 ）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
理学療法評価学 改訂第6版	松澤正・江口勝彦	金原出版株式会社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
臨床での測定精度を高める！ROM測定法	斎藤慶一郎	株式会社メジカルビュー社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

理学療法の業務の基礎となる技術です。繰り返し練習して修得しましょう。

授業科目名	理学療法評価学III						
担　当　者	石田　隆志						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 徒手筋力検査法 (以下MMT) としてもっとも普及しているダニエルの徒手筋力検査法を学ぶ。検査主義をビデオおよび実技指導で学んだ後に、学生同士でそれぞれ検査者、被験者役を決め、実践練習するする。

(到 達 目 標) 1. MMTの意義と適応および検査方法を理解できる。
2. 筋力低下症状に対してMMT検査法を選択する考え方を身に付ける。
3. MMT検査を実施できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

1. 講義は毎回、検査手技の練習があるためジャージ等動きやすい服装で参加すること。
2. 講義前後には学習したMMT検査の予習復習として実技練習を行うこと。
3. 国家試験問題等を学習しMMT検査に対する知識を向上させること。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	徒手筋力検査の概念と考え方、段階づけの定義	講義･実技	石田　隆志
2	上肢1　肘関節	講義･実技	石田　隆志
3	上肢2　肩甲上腕関節	講義･実技	石田　隆志
4	上肢3　健康胸郭関節	講義･実技	石田　隆志
5	上肢4　前腕	講義･実技	石田　隆志
6	上肢5　手関節	講義･実技	石田　隆志
7	上肢まとめ	講義･実技	石田　隆志
8	体幹･骨盤1	講義･実技	石田　隆志
9	体幹･骨盤2	講義･実技	石田　隆志
10	下肢1　股関節i	講義･実技	石田　隆志
11	下肢2　股関節ii	講義･実技	石田　隆志
12	下肢3　膝関節	講義･実技	石田　隆志
13	下肢4　足関節	講義･実技	石田　隆志
14	下肢まとめ	講義･実技	石田　隆志
15	上肢･下肢･体幹まとめ	講義･実技	石田　隆志

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
新・徒手筋力検査法	Helen J.Hislop	協同医書出版株式会社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

教員からのメッセージー正確なMMT検査を実施実施するためには、繰り返し練習する必要があります。
1.講義資料のMMT検査早見表を参照して基本的手技を暗記しましょう
2.自分の身体で検査運動を練習しましょう
3.友人に被験者になって頂いて検査手技を練習しましょう
　講義前に前回講義で学習した検査を確認しますので、各自復習を行うようにして下さい。反復して練習すれば着実にMMT検査技術は向上します、自らの成長を感じ楽しみながら学習していきましょう。

授業科目名	理学療法評価学Ⅳ						
担　当　者	山城　美咲						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 本講義はリハビリテーションの対象となることの多い整形外科疾患について、主に評価方法の理解と徒手検査の実践を行う。具体的には、上肢、脊椎、下肢の疾患により生じる運動器障害に対する検査法の抽出と実施 (実技) について、講義と演習を組み合わせながら行っていく。

(到 達 目 標) 1. 整形外科疾患の病態に対する理解を深め、適切な検査法が抽出できる。
2. 選択した検査について説明ができる。
3. 学んだ検査が実施できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

受講にあたり機能解剖学や運動生理学、整形外科学など予習・復習を行ってください。また、実技が行いやすい服を準備するようにしてください。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	オリエンテーション、組織の修復、RICE処置	講義・実技	山城　美咲
2	疼痛の評価について	講義・実技	山城　美咲
3	肩関節疾患 (肩峰下インピンジメント、腱断裂) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
4	肩関節疾患 (神経障害) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
5	肘関節疾患 (靭帯損傷、神経障害他) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
6	頭頸部疾患に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
7	胸椎・胸郭の運動器障害に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
8	胸椎疾患に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
9	股関節の障害 (可動域制限) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
10	股関節障害 (安定性・協調性) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
11	股関節の障害 (疼痛中心) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
12	膝関節疾患 (変形性膝関節症) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
13	膝関節疾患 (靭帯損傷、半月板損傷) に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
14	足関節疾患に対する徒手検査法	講義・実技	山城　美咲
15	姿勢観察・評価	講義・実技	山城　美咲

□期末試験（　　）%　■提出物（ 10 ）%　■小テスト（ 60 ）%　■実技試験（ 30 ）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
局所と全身からアプローチする運動器の運動療法　第1版	小柳　磨毅、中江　徳彦、井上　悟	羊土社
書　名	**著　者**	**出　版　社**

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
運動器疾患の機能解剖に基づく評価と解釈（上肢篇）	林　典雄　監修	運動と医学の出版社
書　名	**著　者**	**出　版　社**
運動器疾患の機能解剖に基づく評価と解釈（下肢篇）	林　典雄　監修	運動と医学の出版社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

講義の前に解剖学、運動学の復習をしてください (60分程度)

授業科目名	理学療法評価学Ⅴ						
担　当　者	石田　隆志						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 小脳疾患、パーキンソン病の病態を理解し、適切な検査を実施できるようにする。

(到 達 目 標) 1.小脳疾患、パーキンソン病の病態を理解する。
2.小脳疾患、パーキンソン病の症状に対して検査を選択して、実施できるようになる。
3.症例に対する適切なパフォーマンス評価を選択し、実施できるようになる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

指定映像教材で予習してから受講すること。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	小脳疾患の病態と脳画像	講義	石田　隆志
2	小脳疾患の症状	講義	石田　隆志
3	小脳疾患の検査1	講義	石田　隆志
4	小脳疾患の検査2	講義	石田　隆志
5	Scale for the assessment and rating of ataxia (SARA)	講義	石田　隆志
6	パーキンソン病の病態と脳画像	講義	石田　隆志
7	パーキンソン病の症状	講義	石田　隆志
8	パーキンソン病の検査1	講義	石田　隆志
9	パーキンソン病の検査2	講義	石田　隆志
10	Unified Parkinson’s Disease Rating Scale (UPDRS)1	講義	石田　隆志
11	Unified Parkinson’s Disease Rating Scale (UPDRS)2	講義	石田　隆志
12	パフォーマンス評価1	講義	石田　隆志
13	パフォーマンス評価2	講義	石田　隆志
14	パフォーマンス評価3	講義	石田　隆志
15	小脳、パーキンソン病検査まとめ	講義･試験	石田　隆志

■期末試験（ 70 ）%　■提出物（ 30 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
ベッドサイドの神経の診かた	田崎義明	南山堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
よくわかる理学療法の検査・測定・評価	斎藤昭彦	秀和システム
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

ほとんどの方はまだ小脳疾患、パーキンソン病の症状を実際に見たことは無いとおもいます。このため、本講義では映像教材、参考書を用いて小脳のイメージをつかんでもらってから、症状に対する検査手技を学習します。
みなさんにとってあまり馴染みのない疾患かもしれませんが、臨床では片麻痺の次に多〈多〈接する疾患です。中枢疾患を発症して困っている患者様の力になれるよう、知識と検査技術を身に着けていきましょう。
併せてすべての疾患に共通するパフォーマンス評価の検査手技も学習します。

授業科目名	理学療法評価学VI						
担　当　者	青野　健治						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 呼吸器疾患、循環器疾患の病態と障害に対する評価法について実技を交え学習する。

(到 達 目 標) 呼吸器、循環器の解剖と生理について理解する。
代表的な呼吸循環疾患の病態とその評価法について理解し、実施することができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	オリエンテーション、呼吸器系の解剖	講義	青野　健治
2	体表解剖 (含実技)	講義･実技	青野　健治
3	呼吸器系の生理	講義	青野　健治
4	血液ガスと酸塩基平衡	講義	青野　健治
5	肺機能	講義	青野　健治
6	フィジカルアセスメント･視診･触診 (含実技)	講義･実技	青野　健治
7	フィジカルアセスメント･打診･聴診 (含実技)	講義･実技	青野　健治
8	呼吸理学療法評価 (呼吸困難、運動耐用能、ADL、QOL)	講義	青野　健治
9	画像所見	講義	青野　健治
10	循環器系の解剖と生理	講義	青野　健治
11	心電図	講義	青野　健治
12	心電図 (実技)	講義･実技	青野　健治
13	脈拍･血圧測定 (含実技)	講義･実技	青野　健治
14	循環器の評価	講義	青野　健治
15	まとめ	講義	青野　健治

■期末試験（ 60 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 40 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学　内部障害理学療法学	奈良　勲	医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

単元終了ごとに小テストを行うので、復習を欠かさず行うこと。

授業科目名	理学療法基礎治療学Ⅰ						
担　当　者	山城　美咲						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 基礎治療学Ⅰでは、理学療法の主要な治療手段である運動療法の基礎を学ぶ。総論として運動療法の定義や歴史、運動の手段や方法などを学習する。また、解剖学･生理学･運動学の知識をもとに運動が体に及ぼす影響を理解し、運動療法の効果について検証できるようになることを目的とする。

(到 達 目 標) 1. 運動療法の概念が説明できる
2. 運動療法の開始基準や禁忌事項、患者の権利などを理解し、安全な運動療法を提供することの重要性を知る
3. 運動が身体に及ぼす影響について、基礎知識をもとに説明ができる

履修における注意事項（受講ルールなど）

･小テストとレスポンスシートにて到達目標や講義の理解度を確認する
･講義で配布する資料や文章などをインターネット上に公開することを禁止する

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	運動療法の定義、対象	講義	山城　美咲
2	運動療法の目的、歴史、今後の展望	講義	山城　美咲
3	運動療法の手段と方法、運動の分類、運動療法の特性	講義	山城　美咲
4	運動療法の禁忌、インフォームドコンセント	講義	山城　美咲
5	運動療法の必要性と効果	講義	山城　美咲
6	二次的障害とその予防	講義	山城　美咲
7	運動療法の順序	講義	山城　美咲
8	運動と呼吸	講義	山城　美咲
9	運動と循環	講義	山城　美咲
10	姿勢変化と生体反応	講義･実技	山城　美咲
11	運動と代謝	講義	山城　美咲
12	体力とは	講義	山城　美咲
13	疼痛のメカニズムと運動療法	講義	山城　美咲
14	ストレスと生体反応、リラクセーション訓練	講義･実技	山城　美咲
15	器具･器械の使用法	講義･実技	山城　美咲

□期末試験（　　）%　■提出物（ 30 ）%　■小テスト（ 70 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
シンプル理学療法シリーズ　運動療法学テキスト　第3版	細田　多穂　監修	南江堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
運動療法学　障害別アプローチの理論と実際　第2版	市橋　則明　編集	文光堂
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･教科書以外にも補足資料を配布することがあります
･講義の理解を深めるためにも予習をしておいてください (60分程度)
･講義では解剖学、生理学、運動学で学んだ知識も必要となりますので、関連付けて理解できるようにしてください

授業科目名	理学療法基礎治療学Ⅱ						
担　当　者	山城　美咲						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 本講義では、理学療法の重要な部分を占める運動療法の基礎を学ぶ。特に、障害別の講義に入る前段階として位置づけ、基本的な運動療法を関節･筋･神経系に分け、各組織の障害と障害別の運動療法について、実技を交えながら学習する。

(到 達 目 標) 1. 各組織の病態生理を理解し、障害別に対する運動療法の目的･注意点･方法が説明できる
2. 各組織の障害に適した運動療法を選択し、リスク管理を含め正しく実践できる
3. ケーススタディをとおして、学んだ知識･技術が身についたか確認することができる

履修における注意事項（受講ルールなど）

･実技の際には動きやすい格好かつ衛生管理に努める (爪は切る、髪は結ぶなど) 不衛生もしくは危険と判断した場合には、その場で改善を求めることもある
･提出物の内容やケーススタディで講義に対する理解度を確認する。また、グループワークへの貢献度や積極的参加度合いも評定

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	関節の機能と障害①	講義	山城　美咲
2	関節の機能と障害②	講義	山城　美咲
3	関節可動域訓練	講義･実技	山城　美咲
4	関節モビライゼーション	講義･実技	山城　美咲
5	ストレッチング	講義･実技	山城　美咲
6	ケーススタディ	グループワーク	山城　美咲
7	筋の機能と障害①	講義	山城　美咲
8	筋の機能と障害②	講義	山城　美咲
9	筋力強化訓練	講義･実技	山城　美咲
10	筋持久力訓練	講義･実技	山城　美咲
11	ケーススタディ	グループワーク	山城　美咲
12	神経系の機能と障害①	講義	山城　美咲
13	神経系の機能と障害②	講義	山城　美咲
14	運動学習について	講義	山城　美咲
15	協調性訓練	講義･実技	山城　美咲

■期末試験（ 80 ）%　■提出物（ 10 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 5 ）%　■その他（ グループワーク ）（ 5 ）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
シンプル理学療法シリーズ　運動療法学テキスト　第3版	細田　多穂　監修	南江堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
運動療法学　障害別アプローチの理論と実際　第2版	市橋　則明　編集	文光堂
書　名	著　者	出　版　社
理学療法NAVI　臨床思考が身につく運動療法Q&A	高橋　哲也　編集	医学書院

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･教科書以外にも補足資料を配布することがあります
･運動療法は理学療法士にとって最も基本となる治療手技であり、その技術習得には原則原理の理解が必要です。講義の理解を深めるためにも予習をしておいてください (60分程度)

授業科目名	骨関節障害理学療法学Ⅰ						
担　当　者	平良　進						
開講年次	3年	開講期	3年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 骨関節障害 (主に股関節、膝関節、足関節) に対する理学療法の基本的な考え方、ADL指導法について学びます。それに加え、基本的な実技の習得、国家試験で求められる知識の理解に努める。

(到 達 目 標) 代表的な骨関節障害 (主に股関節、膝関節、足関節) の基本的な考え方について理解できる。
基本的な実技とADL (主に股関節、膝関節、足関節) について理解できる。
国家試験で求められる知識 (主に股関節、膝関節、足関節) について理解できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

小テストを実施し、前回講義の確認を行う。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
	総論 (骨関節障害とは、それに伴う検査･測定･理学療法)	講義	平良　進
	股関節① (股関節の機能解剖)	講義	平良　進
	股関節② (変股症･大腿骨頚部骨折などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	股関節③ (変股症･大腿骨頚部骨折などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	股関節④ (変股症･大腿骨頚部骨折などのADL指導)	講義	平良　進
	膝関節① (膝関節の機能解剖)	講義	平良　進
	膝関節② (変形性膝関節症などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	膝関節③ (変形性膝関節症などのADL指導)	講義	平良　進
	膝関節④ (靭帯損傷、半月版損傷などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	膝関節⑤ (靭帯損傷、半月版損傷などのスポーツ復帰の運動療法)	講義	平良　進
	膝関節⑥ (靭帯損傷、半月版損傷などのスポーツ復帰の運動療法)	講義	平良　進
	足関節① (足関節の機能解剖)	講義	平良　進
	足関節② (足関節捻挫、足底筋膜炎、アキレス腱断裂などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	足関節③ (足関節捻挫、足底筋膜炎、アキレス腱断裂などのADL指導)	講義	平良　進
	まとめ	試験	平良　進

■期末試験（ 50 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 50 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 提出物は必要時に実施する。 ）（ 0 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準整形外科学	仲村利孝・松野丈夫	医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	骨関節障害理学療法学Ⅱ						
担　当　者	平良　進						
開講年次	3年	開講期	3年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 骨関節障害 (主に脊柱、胸郭、上肢) に対する理学療法の基本的な考え方、ADL指導法について学びます。それに加え、基本的な実技の習得、国家試験で求められる知識の理解に努める。

(到 達 目 標) 代表的な骨関節障害 (主に脊柱、胸郭、上肢) の基本的な考え方について理解できる。
基本的な実技とADL (主に脊柱、胸郭、上肢) について理解できる。
国家試験で求められる知識 (主に脊柱、胸郭、上肢) について理解できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

小テストを実施し、前回講義の確認を行う。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
	脊柱①　(脊柱の機能解剖)	講義	平良　進
	脊柱②　(頸椎ヘルニア、脊柱側弯症などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	脊柱③　(腰痛、腰椎椎間板ヘルニア、関節リュウマチなどの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	脊柱④　(腰痛、腰椎椎間板ヘルニア、関節リュウマチなどのADL指導)	講義	平良　進
	脊柱⑤　(脊柱菅狭窄症、脊椎圧迫骨折などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	脊柱⑥　(脊柱菅狭窄症、脊椎圧迫骨折などのADL指導)	講義	平良　進
	胸郭①　(胸郭の機能解剖)	講義	平良　進
	胸郭②　(胸郭出口症候群などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	胸郭③　(胸郭出口症候群などの術前後のADL指導)	講義	平良　進
	上肢①　(上肢の機能解剖)	講義	平良　進
	上肢②　(肩関節周囲炎などの運動療法とADL指導)	講義	平良　進
	上肢③　(インピンジメント症候群、腱板損傷などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	上肢④　(インピンジメント症候群、腱板損傷などのADL指導)	講義	平良　進
	上肢⑤　(上肢スポーツ外傷などの術前後の運動療法)	講義	平良　進
	まとめ	試験	平良　進

■期末試験（ 50 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 50 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 提出物は必要時に実施する。 ）（ 0 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準整形外科学	仲村利孝・松野丈夫	医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	神経障害理学療法学Ⅰ						
担　当　者	砂川　昌信						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 脳機能局在を理解し脳血管障害後片麻痺の特徴を把握する。また脳血管障害に対する各種検査の意義･目的を把握する。

(到 達 目 標) 運動と感覚の脳機能局在を説明できる。
脳血管障害後片麻痺の障害像について説明できる。
脳血管障害後片麻痺の運動機能について理解し、検査法および評価法を説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①提出物は提出日が定められた課題の他、毎講義後のレスポンスシートを含むものとする。
②講義およびグループ活動に対し、積極的な参加を求める。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	大脳の構造と機能	講義	砂川　昌信
2	神経回路 (運動路･感覚路)	講義	砂川　昌信
3	神経回路 (運動路･感覚路)	講義	砂川　昌信
4	脳卒中の病型と重症度	講義	砂川　昌信
5	脳卒中の画像のみかた	講義	砂川　昌信
6	症状･姿勢の特性 (臥位･座位･立位)	実技	砂川　昌信
7	症状･姿勢の特性 (臥位･座位･立位)	実技	砂川　昌信
8	片麻痺機能検査 (Brunnstrom test) ･深部腱反射･筋緊張検査･感覚検査	実技	砂川　昌信
9	片麻痺機能検査 (Brunnstrom test) ･深部腱反射･筋緊張検査･感覚検査	実技	砂川　昌信
10	片麻痺機能検査 (Brunnstrom test) ･深部腱反射･筋緊張検査･感覚検査	実技	砂川　昌信
11	脳神経検査	講義	砂川　昌信
12	脳神経検査	講義	砂川　昌信
13	高次脳機能障害	講義	砂川　昌信
14	高次脳機能障害	講義	砂川　昌信
15	まとめ	講義	砂川　昌信

■期末試験（ 60 ）%　■提出物（ 20 ）%　■小テスト（ 20 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
脳卒中最前線　第４版	福井圀彦・藤田勉・宮坂元麿	医歯薬
書　名	著　者	出　版　社
コツさえわかればあなたも読める　リハに役立つ脳画像	大村優慈	メジカルビュー

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
脳卒中理学療法の理論と技術	吉尾雅春・原寛美	メジカルビュー
書　名	著　者	出　版　社
病気がみえる　脳・神経		メディックメディア

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

本講義では1年次に履修した解剖学 (中枢神経系) の内容も含まれています。適宜その資料も参考にしながら予習復習を行ってください。検査の関しては実技を行いますので事前に服装の確認を行ってください。

授業科目名	神経障害理学療法学 II						
担　当　者	島袋　公史						
開 講 年 次	3年	開 講 期	3年後期	授 業 回 数	30	単 位 数	1

授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標

(概 要) 脳卒中片麻痺患者の機能的評価と日常生活活動 (ADL) 評価を結びつけ基本的な理学療法立案及び運動療法を学ぶ。

(到 達 目 標) 1. 脳卒中片麻痺患者の動作とADLの関連を理解する。
2. 脳卒中片麻痺患者の機能評価とADL評価の統合と解釈ができるようになる。
3. 脳卒中片麻痺患者の問題点を挙げ、基本的な理学療法を立案及び運動療法を試みることができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

① 他の学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②① 他の学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③ 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

③ 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	脳卒中片麻痺患者の検査と評価　(1)	講義･実技	島袋　公史
2	脳卒中片麻痺患者の検査と評価　(2)	講義･実技	島袋　公史
3	脳卒中片麻痺患者の検査と評価　(3)	実技	島袋　公史
4	脳卒中片麻痺患者の検査と評価　(4)	実技	島袋　公史
5	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈　(臥位･起居動作)	実技	島袋　公史
6	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈　(座位･立ち上がり)	実技	島袋　公史
7	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈　(立位･歩行)	実技	島袋　公史
8	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈　(ADL動作)	実技	島袋　公史
9	問題点からプログラム立案まで　･疾患別･　(1)	講義･実技	島袋　公史
10	問題点からプログラム立案まで　･疾患別･　(2)	講義･実技	島袋　公史
11	問題点からプログラム立案まで　･疾患別･　(3)	講義･実技	島袋　公史
12	病期におけるリハビリテーション　(急性期)	講義･実技	島袋　公史
13	病期におけるリハビリテーション　(回復期)	講義･実技	島袋　公史
14	病期におけるリハビリテーション　(生活期)	講義･実技	島袋　公史
15	まとめ	講義	島袋　公史

■期末試験（ 50 ）%　■提出物（ 10 ）%　■小テスト（ 30 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 10 ）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
脳卒中最前線　第4版	福井圀彦・藤田勉・宮坂元麿	福井圀彦・藤田勉・宮坂元麿
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
リハに役立つ脳画像	病気がみえる　脳・神経	メジカルビュー
書　名	著　者	出　版　社
病気がみえる　脳・神経		メディックメディア

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

・前期（神経理学療法Ⅰ）で使用した資料も講義中に使用しますので準備してください。
・実技も行いますので動きやすい服装でお願いします。
・課題発表もありますのでわからないことがあれば随時担当教員へ声をかけてください。

授業科目名	神経障害理学療法学III						
担　当　者	溝田　康司						
開講年次	3年	開講期	3年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法の対象となる小児期の発達と代表的疾患について学ぶ。デュシャンヌ型筋ジストロフィー症、二分脊椎、ダウン症、学習障害の基礎知識について学ぶ。また、脳性麻痺については医学的知識に加え、分類、特徴、評価、治療など系統的障害像を学ぶ。また、障がい児教育の日米比較について概要を学ぶ。

(到 達 目 標) 1) 運動発達を主として正常発達の流れを理解する。
2) 小児期の運動障害を主訴とする代表的疾患の特徴を理解する。
3) 狭義の発達障害について理解する。
4) 脳性麻痺の全般を系統的に理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

初回に配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。
講義3回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	小児の理学療法の概要	講義	溝田　康司
	0～1歳までの正常運動発達概要	講義･クイズ	溝田　康司
	原始反射	講義･クイズ	溝田　康司
	立ち直り反応･平衡反応	講義･クイズ	溝田　康司
	デュシャンヌ型筋ジストロフィー症	講義･クイズ	溝田　康司
	二分脊椎	講義･クイズ	溝田　康司
	ダウン症･知的障害	講義･クイズ	溝田　康司
	発達障害	講義･クイズ	溝田　康司
	脳性麻痺の概要･知識の整理	講義･クイズ	溝田　康司
	脳性麻痺の分類と特徴 (痙直型)	講義･クイズ	溝田　康司
	脳性麻痺の分類と特徴 (アテトーゼ･失調･弛緩型)	講義･クイズ	溝田　康司
	脳性麻痺の分類と特徴及び評価 (GMFCS/GMFM/ROM)/整形外科	講義･クイズ	溝田　康司
	脳性麻痺の評価/整形外科/自助具･補助具･装具	講義･クイズ	溝田　康司
	障害児教育/まとめ	講義･クイズ	溝田　康司
	試験		溝田　康司

■期末試験（ 90 ）%　□提出物（　　）%　■小テスト（ 10 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
イラストでわかる小児理学療法	上杉雅之監修	医歯薬出版
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
PT・OTのための発達障害ガイド	新田收他編	金原出版
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1) Web復習クイズ (10分程度) →2) 教科書講義該当範囲の黙読 (10分程度) →3) 当日分の講義概要の説明→4) 講義 (50～60分程度) →5) 当日分の学修記録 (10分程度) →6) 講義終了

授業科目名	神経障害理学療法学Ⅳ						
担　当　者	石田　隆志/ 天願　博敦/ 非常勤講師						
開講年次	3年	開講期	3年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 神経症状を呈する特殊疾患や脊髄損傷における病態および障害の理解を深め、理学療法の知識および実践を学ぶ。

(到 達 目 標) ①神経筋疾患ならびに脊髄損傷の病態を理解する。②病態から生じる症状や問題を理解する。③症状や問題点に対する治療内容を理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	パーキンソン病（症候群）の分類･症状･その他の特徴	講義	石田　隆志
2	パーキンソン病（症候群）の評価、リスク、運動療法について	講義	石田　隆志
3	失調症の症状について	講義	石田　隆志
4	失調症の評価、リスク、運動療法について	講義	石田　隆志
5	筋疾患①デュシャンヌ型ジストロフィー	講義	天願　博敦
6	筋疾患②重症筋無力症	講義	天願　博敦
7	神経変性疾患：筋萎縮性側索硬化症（ALS）	講義	天願　博敦
8	脱髄性疾患：多発性硬化症、ギランバレー症候群	講義	天願　博敦
9	脊髄損傷とは、受傷起点･障害（像）と障害について	講義	非常勤講師
10	脊髄損傷の病態生理	講義	非常勤講師
11	障害分類：ASIS、運動機能障害、感覚障害、自立神経障害	講義	非常勤講師
12	脊髄損傷の日常生活活動	講実･実技	非常勤講師
13	車椅子操作と松葉杖、床上動作にて	講義･実技	非常勤講師
14	社会復帰の為に必要な生活環境、リハの流れとゴール設定	講義･実技	非常勤講師
15	まとめ		天願　博敦

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

この講義では神経筋疾患や脊髄損傷などの神経症状を呈する疾患を扱います。各疾患の病態や症状から基本的な治療までを取り扱うため、各疾患が混同しないように整理して講義を受けるようにして下さい。

授業科目名	内部障害理学療法学Ⅰ						
担　当　者	青野　健治/ 島袋　尚美						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 内部障害理学療法学Ⅰでは呼吸器疾患に対する理学療法の基本手技の実際について実技を交えて学ぶ。また、がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割や一連の流れについて講義する。

(到 達 目 標) ① 呼吸器疾患、特に間質性肺炎と慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の病態について理解し、理学療法が実施できる。
② 外科手術後、ICU 管理、人工呼吸器管理状態における理学療法について説明できる。
③ がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割と理学療法の実際について説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	オリエンテーション、呼吸理学療法総論 (歴史、対象)	講義	青野　健治
2	呼吸理学療法　コンディショニング (リラクセーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング)	講義･実技	青野　健治
3	呼吸理学療法　排痰法とは、排痰法の実際	講義･実技	青野　健治
4	呼吸理学療法　排痰法 (呼吸介助法)	講義･実技	青野　健治
5	呼吸理学療法　運動処方	講義	青野　健治
6	呼吸理学療法　酸素療法･人工呼吸療法	講義	青野　健治
7	呼吸理学療法　ICUにおける理学療法、術後の呼吸理学療法	講義	青野　健治
8	呼吸理学療法　ケーススタディ	講義	青野　健治
9	がんのリハビリテーション　がん (悪性腫瘍) とは、がんの分類、がんの検査	講義	島袋　尚美
10	がんのリハビリテーション　がんの進行と病期･ステージ、がんの治療、緩和ケア	講義	島袋　尚美
11	がんのリハビリテーション　理学療法の目的と目標、理学療法評価	講義	島袋　尚美
12	がんのリハビリテーション　理学療法を行う上でのリスク	講義	島袋　尚美
13	がんのリハビリテーション　疾患別理学療法の概要	講義	島袋　尚美
14	がんのリハビリテーション　終末期患者に対する対応、エビデンス	講義	島袋　尚美
15	まとめ	講義･試験	青野　健治/ 島袋　尚美

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学　内部障害理学療法学	奈良勲	医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

わからないことは授業中、授業外を問わず質問して構わないので、学修内容を理解するよう努めること。また、講義終了後には事後学修として、該当範囲の内容の整理をしておくこと。

授業科目名	内部障害理学療法学Ⅱ						
担　当　者	青野　健治/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 循環器疾患、糖尿病、腎疾患について、その病態を理解するとともに、理学療法評価および治療について学ぶ。

(到 達 目 標) 代表的な循環器疾患の症状および病態を理解し、循環器疾患に対する理学療法の基本技術の目的や方法を理解する。
糖尿病の症状および病態を理解し、理学療法の基本技術の目的や方法を理解する。
腎疾患の症状および病態を理解し、理学療法の基本技術の目的や方法を理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	オリエンテーション (グループ学習の効果、課題提示)	講義	青野　健治
2	循環器リハグループ学習	演習	青野　健治
3	循環器リハツアー	演習	青野　健治
4	糖尿病リハグループ学習	演習	青野　健治
5	糖尿病リハツアー	演習	青野　健治
6	腎リハグループ学習	演習	青野　健治
7	腎リハツアー	演習	青野　健治
8	検討会 (各分野で確認する項目のまとめ)	演習	青野　健治
9	循環器リハの実際	講義	非常勤講師
10	循環器リハの実際	講義	非常勤講師
11	糖尿病リハの実際	講義	非常勤講師
12	糖尿病リハの実際	講義	非常勤講師
13	腎リハの実際	講義	非常勤講師
14	腎リハの実際	講義	非常勤講師
15	まとめ	講義	青野　健治

■期末試験（ 80 ）%　■提出物（ 20 ）%　□小テスト（　　）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
標準理学療法学　内部障害理学療法学	奈良勲	医学書院
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

わからないことは授業中、授業外を問わず質問して構わないので、学修内容を理解するよう努めること。また、講義終了後には事後学修として、該当範囲の内容の整理をしておくこと。

授業科目名	物理療法学						
担　当　者	大城　貞則						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 物理療法実施による生体反応、適応疾患、機器特性について教授する

(到 達 目 標) ①各種物理療法の特性を理解する
②各種物理療法が生体に与える生理学的、機械的作用を理解する
③各種物理療法の適応、禁忌を理解する

履修における注意事項（受講ルールなど）

講義への積極的な参加を求める

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	痛みの生理学と病理学	講義	大城　貞則
2	痛みの生理学と病理学	講義	大城　貞則
3	炎症と組織修復	講義	大城　貞則
4	関節可動域制限	講義	大城　貞則
5	温熱療法に必要な物理学と生理学	講義	大城　貞則
6	ホットパック･パラフィン浴	講義	大城　貞則
7	水治療法	講義	大城　貞則
8	超短波療法･極超短波療法	講義	大城　貞則
9	超音波療法	講義	大城　貞則
10	寒冷療法	講義	大城　貞則
11	電気を用いた治療法	講義	大城　貞則
12	電気を用いた治療法	講義	大城　貞則
13	光線療法	講義	大城　貞則
14	牽引療法･圧迫療法	講義	大城　貞則
15	まとめ	講義･試験	大城　貞則

■期末試験（ 80 ）%　■提出物（ 10 ）%　■小テスト（ 10 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
PT・OTビジュアルテキスト　エビデンスから身につける物理療法　第1版	庄本　康治	羊土社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

物理療法は、基礎知識として生理学の知識が求められる。そのため、一学年で学んだ生理学を事前に復習し、再確認し、講義に臨むことを求める

授業科目名	物理療法演習						
担　当　者	大城　貞則						
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 物理療法実施による生体反応、適応疾患、機器特性について教授する

(到 達 目 標) ①各種物理療法の特性を理解し、実践できる
②各種物理療法の適応、禁忌を理解し、物理療法を実践できる

履修における注意事項（受講ルールなど）

演習への積極的な参加を求める

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	物理療法機器を使用した実験方法とデータ収集方法	講義	大城　貞則
2	物理療法演習２(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
3	物理療法演習３(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
4	物理療法演習４(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
5	物理療法演習５(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
6	物理療法演習６(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
7	物理療法演習７(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
8	物理療法演習８(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
9	物理療法演習９(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
10	物理療法演習１０(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
11	物理療法演習１１(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)	講義	大城　貞則
12	物理療法演習１２(実験結果発表)	講義	大城　貞則
13	物理療法演習１３(実験結果発表)	講義	大城　貞則
14	物理療法演習１４(物理療法の実践)	講義	大城　貞則
15	物理療法演習１４(物理療法の実践)	講義	大城　貞則

□期末試験（　　）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　■発　表（ 70 ）％　■その他（ 物理療法の実践 ）（ 30 ）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
PT・OTビジュアルテキスト　エビデンスから身につける物理療法　第1版	庄本　康治	羊土社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

前期で学んだ物理療法学を事前に復習し、再確認し、演習に臨むことを求める

授業科目名	義肢装具学総論						
担　当　者	砂田　宏典/ 島袋　公史						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法における義肢･装具の役割や治療の位置づけを理解し、装具利用に必要な知識や背景を学ぶ。

(到 達 目 標) 1. 義肢と装具の違いについて説明できる。
2. 各種義肢装具の使用目的を説明できる。
3. 義肢装具の製作過程を理解する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。
他学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	義肢装具の歴史･義肢装具とチーム医療	講義	島袋　公史
2	装具とは（種類･製作過程）	講義	島袋　公史
3	義肢とは（種類･製作過程）	講義	島袋　公史
4	装具の名称･付属品	講義	島袋　公史
5	断端管理･術前術後の理学療法	講義	島袋　公史
6	下肢装具（異常歩行）	講義･演習	島袋　公史
7	頚部装具（チェックアウト･種類･疾患別）	講義	砂田　宏典
8	体幹装具（チェックアウト･種類･疾患別）	講義	砂田　宏典
9	その他装具（小児用装具･免荷装具など）	講義	砂田　宏典
10	上肢装具（種類･対応障害）	講義	砂田　宏典
11	義手の種類と特徴	講義	砂田　宏典
12	義足の部品	講義	砂田　宏典
13	義足の特徴	講義	砂田　宏典
14	義足のチェックポイント	講義	砂田　宏典
15	まとめ	講義･試験	島袋　公史

■期末試験（ 70 ）%　■提出物（ 10 ）%　■小テスト（ 20 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
義肢装具学テキスト	細田多穂、他	南江堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
PT・OTビジュアルテキスト　義肢・装具学	高田治美、他	羊土社
書　名	著　者	出　版　社
脳卒中の下肢装具　第3版	渡邉英夫、他	医学書院

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･わからないことなどがあれば、講義中でもかまわないので質問するようにしましょう。
･課題発表ありますのでわからいないことがあれば随時担当教員に確認するようにしてください。
･参考資料は適時配布します。

授業科目名	義肢装具学各論						
担　当　者	島袋　公史/ 立津　統						
開講年次	3年	開講期	3年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 義肢装具総論で学んだ基礎知識をもとに義肢装具の構造と機能を理解し、適応となる疾患や障害を学ぶ。加えて装具の処方及び効果判定や、切断術直後の断端管理や義肢適合のチェックアウトについて学習し、理学療法士としての役割を理解する。

(到 達 目 標) 1. 装具のチェックアウトや種類ならびに適応疾患について学習する。
2. 義足の種類や構造ならびにベンチアライメントやスタティックアライメントについて学習する。
3. 義肢装着者の歩行分析ならびに指導方法について学習する。

履修における注意事項（受講ルールなど）

携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。
他学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	短下肢装具 ① チェックアウト、種類	講義･演習	島袋 公史
2	短下肢装具 ② 疾患別	講義	島袋 公史
3	長下肢装具 ① チェックアウト、種類	講義	立津 統
4	長下肢装具 ② 疾患別	講義	立津 統
5	靴型装具	講義	島袋 公史
6	上肢装具	講義	立津 統
7	装具 歩行分析･指導	講義	立津 統
8	ソケットの形状、種類	講義	立津 統
9	大腿義足（種類･アライメント）	講義	立津 統
10	下腿義足（種類･アライメント）	講義	立津 統
11	足部義足（種類･アライメント）	講義	立津 統
12	歩行分析･指導	講義	立津 統
13	歩行分析･指導	講義･演習	島袋 公史
14	歩行分析･指導	講義･演習	島袋 公史
15	まとめ	講義･試験	島袋 公史

■期末試験（ 70 ）%　■提出物（ 10 ）%　■小テスト（ 20 ）%　□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
義肢装具学テキスト	細田多穂、他	南江堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
PT・OTビジュアルテキスト　義肢・装具学	高田治美、他	羊土社
書　名	著　者	出　版　社
脳卒中の下肢装具　第3版	渡邉英夫、他	医学書院

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･わからないことなどがあれば、講義中でもかまわないので質問するようにしましょう。
･参考資料は適時配布します。

授業科目名	日常生活活動Ⅰ						
担　当　者	天願　博敦/ 島袋　尚美						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 日常生活活動 (Activity of Daily Living) の概念、分類、評価について学び、基礎的知識を理解した上でADL評価を行っていく。さらに、評価した内容に基づき、実技等を通して介助及び動作指導を学んでいく。

(到 達 目 標) ①ADLと障害の概念を理解しICIDH、ICF等を用いて構造化することが出来る。②FIM、BI等の指標を用いてADL評価が行える。③ADL動作を観察、評価し適切な動作指導、介助が行える。

履修における注意事項（受講ルールなど）

他の学生の学習機会を損なう行為 (講義に関係のない私語) を禁止する。講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	ADLの概念と範囲	講義	天願　博敦
2	ADLと障害 (ICIDHとICF)	講義	天願　博敦
3	ADL評価法	講義	天願　博敦
4	ADL評価法の実際① (FIM・BI)	講義	島袋　尚美
5	ADL評価法の実際② (FIM・BI)	講義	島袋　尚美
6	実技演習① (寝返り動作・実技グループにて)	実技	天願　博敦
7	実技演習振り返り (寝返り動作)	実技	天願　博敦
8	実技演習② (起き上がり動作・実技グループにて)	実技	天願　博敦
9	実技演習振り返り (起き上がり動作)	実技	天願　博敦
10	実技演習③ (立ち上がり動作・実技グループにて)	実技	天願　博敦
11	実技演習振り返り (立ち上がり動作)	実技	天願　博敦
12	実技演習④ (座位・立位・その他など・実技グループにて)	実技	天願　博敦
13	実技演習振り返り (座位・立位・その他など)	実技	天願　博敦
14	身の回り動作のについて	実技	天願　博敦
15	まとめ		天願　博敦

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

適宜資料を配布します。わからないことは、授業中でも構わないので質問することなど。

授業科目名	日常生活活動Ⅱ						
担　当　者	佐久田　衛/ 島袋　公史						
開講年次	3年	開講期	3年前期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 補助具、自助具や環境設定についての概念およびその適応について講義や演習を通して学習する。

(到 達 目 標) ①症状や障害に応じた適切な歩行補助具を選択し、歩行の介助･指導ができる
②症状や障害に応じた適切な車いすを選択･調整し、車いすの介助･操作指導ができる
③生活環境を評価･調整し、環境設定を提案できる

履修における注意事項（受講ルールなど）

①講義で配布する資料や文書等をインターネット上に公開することを禁止する
②他の学生の学習機会を損なう行為 (講義に関係のない私語など) を禁止する

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	歩行と歩行補助具	講義	佐久田　衛
2	演習① (杖歩行)	演習	佐久田　衛
3	演習② (歩行器歩行)	演習	佐久田　衛
4	車いすの種類と処方	講義	佐久田　衛
5	演習③ (普通型車いす)	演習	佐久田　衛
6	演習④ (リクライニング車いす･他)	演習	佐久田　衛
7	リハビリテーションにかかわる社会資源	講義	佐久田　衛
8～10	リハビリテーション支援機器 (起居･移乗･移動)	実技	島袋　公史
11	リハビリテーション支援機器 (日常生活活動)	実技	島袋　公史
12	バリアフリー検証	講義･演習	島袋　公史
13～14	バリアフリー検証 発表	講義･演習	島袋　公史
15	まとめ	講義	佐久田 衛/ 島袋 公史

■期末試験（ 60 ）%　■提出物（ 10 ）%　□小テスト（　　）%■実技試験（ 30 ）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
日常生活活動学テキスト改訂第3版	河元岩男/坂口勇人/村田伸　編	南江堂
書　名	著　者	出　版　社
PT・OTビジュアルテキスト　ADL	柴　喜崇，下田信明／編	羊土社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
日常生活活動（ADL）第2版	千住秀明	神陵文庫
書　名	著　者	出　版　社
日常生活活動・生活環境学 第5版	鶴見隆正・隆島研吾	医学書院

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

わからないことがあれば講義中でも構わないので質問すること
課題発表があるので不明な点は随時担当教員に確認すること

授業科目名	触察法						
担　当　者	天願　博敦/ 佐久田　衛						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 触察は理学療法分野において評価･治療手段の重要な要素となる。本講義で触察の知識･技術を身につけ、後に受講する評価学や治療学の講義に役立てる。

(到 達 目 標) 1. 骨･筋を触察する際の要点や注意点が説明できる
2. 体表から骨指標や筋の走行を示すことができる
3. 本講義を通して患者様への接し方を学ぶ

履修における注意事項（受講ルールなど）

･解剖学、運動学の進捗状況に照らし合わせ、骨の触察を7回、筋の触察を7回実施する
･実技が主になる講義なので、動きやすい恰好または肌が露出できるよう準備をすること
･衛生管理上、爪は切る、髪は結ぶなど清潔を保つよう心掛ける。不衛生もしくは危険と判断した場合には、その場で改善をもとめる事もある。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	オリエンテーション、触察の方法･注意点	講義･実技	佐久田　衛
2	上肢帯の骨①	講義･実技	佐久田　衛
3	上肢帯の骨②	講義･実技	佐久田　衛
4	下肢帯の骨①	講義･実技	佐久田　衛
5	下肢帯の骨②	講義･実技	佐久田　衛
6	骨盤帯、頚椎の骨	講義･実技	佐久田　衛
7	脊椎の骨	講義･実技	佐久田　衛
8	上肢帯の筋①	講義･実技	天願　博敦
9	上肢帯の筋②	講義･実技	天願　博敦
10	上肢帯の筋③	講義･実技	天願　博敦
11	下肢帯の筋①	講義･実技	天願　博敦
12	下肢帯の筋②	講義･実技	天願　博敦
13	下肢帯の筋③	講義･実技	天願　博敦
14	頚部･体幹の筋	講義･実技	天願　博敦
15	まとめ	講義･試験	天願　博敦

□期末試験（　　）%　■提出物（ 30 ）%　■小テスト（ 30 ）%　■実技試験（ 30 ）%
■口頭試問（ 10 ）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
機能解剖と触診	MKPT研究会、工藤慎太郎	羊土社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
プロメテウス　解剖学総論/運動器系　第3版	坂井　健雄、松村譲兒	医学書院
書　名	著　者	出　版　社
運動療法のための機能解剖学的触診技術　改定第２版	青木　隆明、林　典雄	MEDICAL VIEW

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･本講義は解剖学、運動学と関連付けると理解が深まります。各講義前に39分程度予習してください
･ヒトの身体は性差や個体差があります。講義ではペアの触察だけでなく、より多くの人に触れ、触察の技術を高めてください

授業科目名	理学療法研究法						
担　当　者	専任教員/ 島袋　尚美/ 毛利　光宏						
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	60	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 研究の視点および進め方と要点を学ぶことを目的とする。主に方法論を重点的に理解し、結果に至るまでを学習する。また、データの性質を理解し、統計解析手法の選択や結果の見方、活用方法を学ぶ。

(到 達 目 標) ・批判的視点での思考過程を理解する。また、研究の流れを理解し、方法論を把握する。さらに問題提起の視点を模索することができる。
・研究テーマに対して、統計解析手法を選択し、統計解析ソフトを使用することができる。さらに出力された結果を理解し、正しく表示、活用することができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①他の学生の学習機会を損なう行為 (講義に関係のない私語、行為など) を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板及びスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義・実技・演習）	担当者
1	オリエンテーション、理学療法研究の必要性(EBM・EBPT、診療ガイドライン)	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
2	研究デザイン	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
3	研究計画・研究倫理	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
4	データの尺度	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
5	データ特性の表現(代表値・ばらつき・Excel演習)	講義・演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
6	文献検索	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
7	推測統計①	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
8	推測統計②	講義	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
9	文献検索の方法：インターネットを利用した論文の検索方法について学ぶ	講義・演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
10	先行研究論文の抄読	講義・演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
11	研究計画の立て方	講義・演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
12	研究計画の作成：規定の書式に従い計画書を作成し、担当教員の指導を受ける	講義・演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
13	研究データ収集	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
14	研究データ収集	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
15	収集した研究データの整理・解析	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
16	収集した研究データの整理・解析	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
17	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
18	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
19	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
20	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
21	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
22	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
23	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
24	論文作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員
25	プレゼンテーション資料、配布資料作成	演習	毛利 光宏/ 島袋 尚美/ 専任教員

■期末試験（ 80 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 20 ）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
すぐできる！リハビリテーション統計（解析ソフト付）	（監修）山本澄子、谷浩明	南江堂
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）
・「研究法」に関しては、適宜資料を配布します。インターネットを利用した検索作業がありますので、PCやスマートフォンを持参して下さい。 ・わからないことは質問し、学習内容を理解するよう努めて下さい。

授業科目名	臨床理学療法演習Ⅰ						
担　当　者	専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法評価学および治療学にて学習した内容を基に、対象者の状態や病態に即した検査項目の抽出を論理的に展開し、評価実習の準備として、知識及び実技の総復習を行う。
障害理解の根幹である障害論を学習し，さらには情報収集から治療プログラム立案までの一連の理学療法評価プロセスを学習する

(到 達 目 標) 患者の状態、病態に即した検査項目を抽出し、その理由を論理的に説明できるようになる。
検査データをアセスメントし、患者の問題点を論理的に抽出できるようになる

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	オリエンテーション	講義	専任教員
2	運動器系疾患理学療法 (疾患に即した検査項目の抽出)	講義･演習	専任教員
3	運動器系疾患理学療法 (疾患に即した検査項目の抽出)	講義･演習	専任教員
4	運動器系疾患理学療法 (検査の実施)	演習	専任教員
5	運動器系疾患理学療法 (検査の実施)	演習	専任教員
6	内部障害理学療法 (疾患に即した検査項目の抽出)	講義･演習	専任教員
7	内部障害理学療法 (疾患に即した検査項目の抽出)	講義･演習	専任教員
8	内部障害理学療法 (検査の実施)	演習	専任教員
9	内部障害理学療法 (検査の実施)	演習	専任教員
10	中枢神経系疾患理学療法 (疾患に即した検査項目の抽出)	講義･演習	専任教員
11	中枢神経系疾患理学療法 (疾患に即した検査項目の抽出)	講義･演習	専任教員
12	中枢神経系疾患理学療法 (検査の実施)	演習	専任教員
13	中枢神経系疾患理学療法 (検査の実施)	演習	専任教員
14	評価実習に向けての知識の確認	講義	専任教員
15	評価実習に向けての実技の確認	実技	専任教員/ 非常勤講師
16	評価実習に向けての実技の確認	実技	専任教員/ 非常勤講師

■期末試験（ 50 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%　■実技試験（ 50 ）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	臨床理学療法演習 II						
担　当　者	専任教員/ 非常勤講師						
開 講 年 次	4年	開 講 期	4年前期,4年後期	授 業 回 数	30	単 位 数	1

授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標

(概 要) 運動器系疾患、内部障害、中枢神経系疾患それぞれで症例を提示し、プログラム立案およびリスク管理に配慮した基本的運動療法を実践する。

(到 達 目 標) 抽出した問題点の優先順位を挙げ、その問題点に即した一般的理学療法の立案ができる。
疾患別または時期別 (急性期･回復期･維持期) の基本的な運動療法ができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

講義およびグループ活動に対し、積極的な参加を求める。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	運動器系疾患理学療法	講義	専任教員
2	運動器系疾患理学療法	講義	専任教員
3	運動器系疾患理学療法	講義･演習	専任教員
4	内部障害理学療法	講義･演習	専任教員
5	内部障害理学療法	講義･演習	専任教員
6	内部障害理学療法	講義･演習	専任教員
7	中枢神経系疾患理学療法	講義･演習	専任教員
8	中枢神経系疾患理学療法	講義･演習	専任教員
9	中枢神経系疾患理学療法	講義･演習	専任教員
10	CBT	試験	専任教員
11	OSCE	実技試験	専任教員/ 非常勤講師
12	OSCE	実技試験	専任教員/ 非常勤講師
13	運動器系疾患理学療法まとめ	講義･演習	専任教員
14	内部障害理学療法まとめ	講義･演習	専任教員
15	中枢神経系疾患理学療法まとめ	講義･演習	専任教員

■期末試験（ 20 ）%　■提出物（ 20 ）%　□小テスト（　　）%■実技試験（ 60 ）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

提出物などは講義 (運動器系疾･内部障害･中枢神経系) によって内容が若干異なります。

授業科目名	予防理学療法論						
担　当　者	天願　博敦/ 非常勤講師						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 近年疾病や外傷を防ぐという予防の重要性が示されている。理学療法士においても予防の面での関りが求められるようになってきており、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。

(到達目標) ウィメンズヘルス･メンズヘルスにおける理学療法士の役割について説明できる。
産業理学療法における理学療法士の役割について説明できる。
介護予防における理学療法士の役割について説明できる。
健康維持，健康増進における理学療法士の役割について説明できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

①ほかの学生の学習機会を損なう行為　(主に私語)　を禁止する。
②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。
③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	オリエンテーション (授業の概要と進め方)	講義	天願　博敦
2	ウィメンズヘルスの概念、女性のライフサイクルと健康	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
3	ウィメンズヘルス･メンズヘルスにおける理学療法士の役割	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
4	ウィメンズヘルス･メンズヘルスにおける理学療法の実際	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
5	産業理学療法の概要	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
6	産業理学療法における理学療法士の役割	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
7	産業理学療法の実際	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
8	介護予防の現状	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
9	介護予防と介護保険	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
10	介護予防における理学療法士の役割	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
11	介護予防における理学療法	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
12	健康維持，健康増進の現状	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
13	健康維持，健康増進における理学療法士の役割	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
14	健康維持，健康増進における理学療法の実際	講義	天願　博敦/ 非常勤講師
15	まとめ	講義	天願　博敦

■期末試験（ 100 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	生活環境論						
担　当　者	天願　博敦/ 島袋　尚美						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 基本的な生活情報、環境情報の重要さを知ることにより、患者の今後の治療方針のあり方にどのように影響してくるのかを考える力を養う。また、理学療法だけではなく、生活環境を変えるための手段をどのように用い、患者に対応する技術があることも知る。

(到 達 目 標) 環境整備の概要を理解する (基本的事項) 。
環境整備の方法論を理解する。住宅改修内容、福祉用具等。
実際場面を想定し、ある程度の改修方法を展開できるようにする。

履修における注意事項（受講ルールなど）

他の学生の学習機会を損なう行為 (講義に関係のない私語など) を禁止する。
講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	生活環境学とは	講義	天願　博敦
2	住環境についての法的諸制度	講義	天願　博敦
3	生活環境整備の留意点①	講義	天願　博敦
4	生活環境整備の留意点②	講義	天願　博敦
5	生活を支えるリハ関連機器①	講義	島袋　尚美
6	生活を支えるリハ関連機器①	講義	島袋　尚美
7	住環境の評価と改善計画①	講義	島袋　尚美
8	住環境の評価と改善計画②	講義	島袋　尚美
9	生活環境改修方法　疾患別①	講義	天願　博敦
10	生活環境改修方法　疾患別②	講義	天願　博敦
11	生活環境整備例	講義	天願　博敦
12	地域特性における環境状況について	講義	天願　博敦
13	住環境整備課題発表	講義	天願　博敦
14	住環境整備課題発表	講義	天願　博敦
15	まとめ	講義･試験	天願　博敦

■期末試験（ 70 ）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 30 ）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

･適宜、資料を配布します。
･わからないことは、授業中でも構わないので、質問をすること。

授業科目名	地域理学療法学Ⅰ						
担　当　者	非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法の中で「地域理学療法学」とは何かを示し、地域というフィールドで理学療法士の役割として何が求められているのかを学ぶ。

(到 達 目 標) ①地域理学療法学とは何かを説明できる。②地域社会で知っておくべき制度などを知る。③理学療法士が地域で働くイメージができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
1	地域理学療法の背景および概念	講義	非常勤講師
2	地域リハビリテーションの流れ①	講義	非常勤講師
3	地域リハビリテーションの流れ②	講義	非常勤講師
4	地域リハビリテーションを支えるシステム	講義	非常勤講師
5	介護予防と地域リハビリテーションについて	講義	非常勤講師
6	障害者の心理と障害受容	講義	非常勤講師
7	対象者の捉え方（ニーズの捉え方）	講義	非常勤講師
8	地域における連携	講義	非常勤講師
9	地域理学療法の展開（成人障害者施設）	講義	非常勤講師
10	地域理学療法の展開（介護老人保健施設）	講義	非常勤講師
11	地域理学療法の展開（通所リハビリテーション）	講義	非常勤講師
12	地域理学療法の展開（訪問リハビリテーション）	講義	非常勤講師
13	地域理学療法の実際①	講義	非常勤講師
14	地域理学療法の実際②	講義	非常勤講師
15	まとめ	講義･試験	非常勤講師

■期末試験（ 100 ）％　□提出物（　　）％　□小テスト（　　）％□実技試験（　　）％
□口頭試問（　　）％　□発　表（　　）％　□その他（　　）（　　）％
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	地域理学療法学Ⅱ						
担　当　者	天願　博敦/ 島袋　尚美/ 非常勤講師						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	30	単位数	1

授業の概要・到達目標

(概 要) 地域理学療法について、地域で活動されている臨床の先生方の講義を通じて将来自分自身が、地域という環境にて何が出来るのかを知るきっかけにして頂きたい。

(到 達 目 標) ①病院以外での場所での理学療法士の業務のあり方を知る。②地域という対象者が住み慣れた場所 (生活) で何を必要としているのかを知る。③講師から得られた情報を元にして自身が何が出来るか、今後の理学療法士像と絡めて学ぶ。

履修における注意事項（受講ルールなど）

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法 (講義･実技･演習)	担当者
1	地域理学療法Ⅱについての概要説明	講義	天願　博敦
2	地域理学療法での活動、考え方	講義	非常勤講師
3	介護保健における理学療法についての活動について	講義	非常勤講師
4	行政における理学療法のあり方	講義	非常勤講師
5	地域での特殊疾患等における理学療法の役割	講義	非常勤講師
6	士会活動におけるスポーツ推進活動での理学療法の関わり	講義	非常勤講師
7	通所サービスでの理学療法士の役割、関わり方について	講義	非常勤講師
8	ターミナルケアにおける理学療法士の役割、関わりについて	講義	島袋　尚美
9	訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割①	講義	非常勤講師
10	訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割②	講義	非常勤講師
11	施設所属以外での理学療法士の関わり方①	講義	非常勤講師
12	施設所属以外での理学療法士の関わり方②	講義	非常勤講師
13	施設所属以外での理学療法士の関わり方③	講義	非常勤講師
14	施設所属以外での理学療法士の関わり方④	講義	非常勤講師
15	まとめ		天願　博敦

■期末試験（ 50 ）%　■提出物（ 50 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　□その他（　　）（　　）%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

基本的には授業を楽しんで積極的な態度で講師の経験談、地域活動の事について学んでいければと考えています。その上で、理学療法士の活動や活躍の場が、いわゆる病院以外にもあるのだという認識を持って頂きたい。それと個性豊かな講師を参考にして地域での活動に必要な知識、人物像などを感じ取っていければ良いと考えいます。

授業科目名	見学実習						
担　当　者	各施設実習指導者・学科教員/ 専任教員						
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	80	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方･接し方などの医療面接スキルを身に付ける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通してリハビリテーションチームとは何かを体験する。

(到 達 目 標) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。
職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。
基本的理学療法の見学体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

実習施設では、実習生として責任ある行動をとること
実習記録の作成･提出は期限を厳守すること
実習施設における規則･心得を守ること

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	施設実習 (2週間)	実技	各施設実習指導者･学科教員/専任教員
	報告会	講義	専任教員

□期末試験（　　）%　■提出物（ 50 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 50 ）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

前日の実習内容を確認し、次の日の実習のために十分な準備をして臨むこと。
「わからないこと」は、積極的に質問し、自己学修につなげること。

授業科目名	評価実習						
担　当　者	各施設実習指導者・学科教員/ 専任教員						
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	160	単位数	4

授業の概要・到達目標

(概 要) 理学療法士として適切に対象者の問題点を把握し、治療計画を策定できるようになるために、実習協力施設にて、臨床実習指導者の指導のもと、評価学の理論と技術を実践し、理学療法評価に必要な基本的態度と技能を身につける。

(到 達 目 標) 臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して、評価を行うことができる。
利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。
文献や指導によって知識･技術を増やすことができる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組むこと。
･実習施設では、実習生として責任ある行動をとること
･実習記録の作成･提出は期限を厳守すること
･実習施設における規則･心得を守ること

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	施設実習 (4週)	講義	各施設実習指導者･学科教員
	報告会	講義	専任教員

□期末試験（　　）%　■提出物（ 50 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 50 ）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

前日の実習内容を確認し、次の日の実習のために十分な準備をして臨むこと。
「わからないこと」は、積極的に質問し、自己学修につなげること。

授業科目名	総合臨床実習						
担　当　者	各施設実習指導者・学科教員/ 専任教員						
開講年次	4年	開講期	4年前期,4年後期	授業回数	520	単位数	13

授業の概要・到達目標

(概 要) 患者･障害者の持つ諸問題を解決するために、評価、プログラム立案、理学療法の実施、再評価、プログラム修正という理学療法の一連のプロセスを実習を通じて学ぶ。

(到 達 目 標) 臨床実習指導者の助言･指導のもと、一連の基本的理学療法が実施できる。
利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。
文献や指導によって知識･技術を増やすことができる

履修における注意事項（受講ルールなど）

これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組むこと。
･実習施設では、実習生として責任ある行動をとること
･実習記録の作成･提出は期限を厳守すること
･実習施設における規則･心得を守ること

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	実習オリエンテーション		専任教員
	統合･解釈にむけた自己学習ガイドおよび統合･解釈シート記載方法について		専任教員
	実習前演習		各施設実習指導者･学科教員
	施設実習 (6週)		各施設実習指導者･学科教員
	報告会		専任教員
	施設実習 (6週)		各施設実習指導者･学科教員
	報告会		専任教員

□期末試験（　　）%　□提出物（　　）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　□発　表（　　）%　■その他（ 実習への取り組みを総合的に判断する ）（ 100 ）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

前日の実習内容を確認し、次の日の実習のために十分な準備をして臨むこと。
「わからないこと」は、積極的に質問し、自己学修につなげること。

授業科目名	地域実習						
担　当　者	各施設実習指導者・学科教員/ 専任教員						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	80	単位数	2

授業の概要・到達目標

(概 要) 地域でのリハビリテーションを実習指導者のもとで見学および経験する。また、生活期における理学療法の役割･優先課題等を理解すると同時に、他職種や家族との連携、社会資源の活用による対象者の支援ができる能力の習得をめざす。

(到 達 目 標) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。
職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。
地域における理学療法の見学体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。

履修における注意事項（受講ルールなど）

これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組むこと。
･実習施設では、実習生として責任ある行動をとること
･実習記録の作成･提出は期限を厳守すること
･実習施設における規則･心得を守ること

授業スケジュール　※事前に説明があった上で、変更される場合があります。

回数	講　義　内　容	方法（講義･実技･演習）	担当者
	施設実習 (2週)		各施設実習指導者･学科教員
	報告会		専任教員

□期末試験（　　）%　■提出物（ 50 ）%　□小テスト（　　）%□実技試験（　　）%
□口頭試問（　　）%　■発　表（ 50 ）%　□その他（　　）（　　）%
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教　科　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

参　考　書

書　名	著　者	出　版　社
書　名	著　者	出　版　社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

前日の実習内容を確認し、次の日の実習のために十分な準備をして臨むこと。
「わからないこと」は、積極的に質問し、自己学修につなげること。